JobCenter

R13.1

<Web機能利用の手引き>

■Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012 および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

■Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

■SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。

■HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。

■AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。

■NQSは、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。

■Oracle、Oracle Clusterware及びJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

■Red Hat は、Red Hat,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■その他、本書に記載されているソフトウエア製品およびハードウエア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウエア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

本書はJobCenterのWeb機能について説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

	気をつけて読んでいただきたい内容です。
	本文中の補足説明
注	本文中につけた注の説明
__	UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

2. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter UCXSingleジョブ利用ガイド	JobCenterをUCXSingleと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter Web機能利用の手引き	Webブラウザ上でジョブ監視を行うことができるJobCenter CL/Webについて説明しています。
JobCenter テキスト定義機能の利用手引き	ジョブネットワークやスケジュール、カレンダ、カスタムジョブテンプレートを、テキストファイルを使って定義する方法を説明しています。

JobCenter　クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド	クラスタ環境で運用しているJobCneterのアップデート、パッチ適用手順を説明しています。
JobCenter R13.1 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

3. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2012/07/31	新規作成	−	第1版
2	2012/09/07	修正	−	制限事項の記載を修正
3	2012/09/13	修正	−	「5.2　ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする」、および「5.3　ログイン・ログアウト」のログイン時に指定するURLを修正 サブジョブネットワーク待ち合わせをジョブネットワーク待ち合わせに名称変更
4	2012/10/05	版改訂	−	R13.1.1リリースに伴い版改訂
5	2012/12/21	修正	−	「2.1.3.1 UNIX版 CL/Webサーバのインストール」UNIX版でCL/Webのインストールパスに半角スペースを含めることができないことを追記 「2.3 バージョンアップ」バージョンアップ手順の記載を追加 「5.2　ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする」ブラウザでアクセスした際に自己署名証明書のエラーが表示されることを追記 「5.3　ログイン・ログアウト」CL/Webの多言語対応についての記載を追加 7章　「障害発生時の情報採取」　CL/Webの情報採取コマンドについての記載を追加 いくつかの誤字を修正 R13.1.2リリースに伴い版改訂
6	2013/05/10	修正	−	「2.4 再インストールが必要となる場合」CL/Webの再インストールについての記載を追加 「CL/Web」という表記のうち、「CL/Webサーバ」の方が適切な箇所について修正 いくつかの誤字を修正 R13.1.3リリースに伴い版改訂
7	2013/12/27	修正	−	「5.5.2.3 サブジョブネットワークトラッカアイコンを操作する」「サブジョブトラッカ部品」を「サブジョブネットワークトラッカ部品」に修正 R13.1.4リリースに伴い版改訂

目次

はじめに iii
1. 凡例 iv
2. 関連マニュアル v
3. 改版履歴 vii
1. 概要 1
1.1. 機能概要 2
1.2. 導入の効果 3
1.3. ライセンスについて 5
1.4. 動作環境 6
1.5. 用語一覧 7
1.6. JobCenter CL/Web利用までの流れ 8
2. CL/Webサーバのインストール・アンインストール 9
2.1. インストール 10
2.1.1. インストール前の事前準備 10
2.1.2. LicenseManagerのインストール 10
2.1.3. CL/Webサーバのインストール 10
2.2. アンインストール 14
2.2.1. LicenseManagerのアンインストール 14
2.2.2. CL/Webサーバのアンインストール 14
2.3. バージョンアップ 15
2.3.1. UNIX版 CL/Webサーバのバージョンアップ 15
2.3.2. Windows版 CL/Webサーバのバージョンアップ 15
2.4. 再インストールが必要となる場合 16
2.4.1. UNIX版 CL/Webサーバの再インストール 16
2.4.2. Windows版 CL/Webサーバの再インストール 16
3. 環境設定 18
3.1. CL/Webサーバ 19
3.1.1. 使用ポートの設定 19
3.2. Webブラウザ 21
3.2.1. アクティブスクリプトの設定 21
3.2.2. SSLの設定 21
3.2.3. Cookieの設定 22
4. CL/Webサーバ起動・停止 23
4.1. CL/Webサーバ起動 24
4.1.1. UNIX版 CL/Webサーバ起動 24
4.1.2. Windows版 CL/Webサーバ起動 24
4.2. CL/Webサーバ停止 27
4.2.1. UNIX版 CL/Webサーバ停止 27
4.2.2. Windows版 CL/Webサーバ停止 27
5. 基本操作 29
5.1. CL/Webの基本的な操作方法 30
5.1.1. CL/Web画面 各部の名称と概要 30
5.1.2. 検索機能 31
5.1.3. ソート機能 34
5.1.4. 表示テーブル内の項目表示機能 36
5.2. ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする 40
5.3. ログイン・ログアウト 41
5.3.1. ログインする 41
5.3.2. ログアウトする 42
5.4. ジョブネットワークに関する操作 44
5.4.1. グループを参照する 44
5.4.2. ジョブネットワークを参照する 44
5.4.3. ジョブネットワークを即時投入する 45
5.5. トラッカに関する操作 50
5.5.1. トラッカを参照する 50

5.5.2. トラッカを操作する 56
5.6. マシンに関する操作 65
5.6.1. マシン一覧を参照する 65
5.6.2. キュー一覧を参照する 65
5.6.3. キューを操作する 67
5.6.4. ユーザー一覧を参照する 69
6. その他機能詳細 71
6.1. メール送信機能詳細 72
6.1.1. SMTPサーバ設定 72
6.1.2. メール送信機能設定 72
6.2. マクロ機能 75
6.2.1. マクロ機能(MG/SV) 75
6.2.2. イベント連携 77
7. 障害発生時の情報採取 79
8. 注意事項・制限事項 80
8.1. 注意事項 81
8.2. 制限事項 82
9. エラーメッセージ一覧 83
9.1. CL/Webサーバでのエラーメッセージ 84
9.2. Webブラウザでのエラーメッセージ 85

図目次

1.1. JobCenter CL/Web画面イメージ 1
1.2. 導入の効果1 3
1.3. 導入の効果2 4
1.4. 導入の効果3(HPOM製品での例) 4
1.5. JobCenter CL/Web利用までの流れ 8
3.1. アクティブスクリプト設定画面 21
3.2. SSL設定画面 22
4.1. ファイル名指定画面 24
4.2. サービス起動画面 25
4.3. サービス開始画面 26
4.4. サービス停止画面 27
4.5. サービス停止画面 28
5.1. CL/Web画面 30
5.2. 検索バー画面 32
5.3. 検索結果画面 33
5.4. ステータスバー画面 33
5.5. ソート前の画面 35
5.6. ソート後の画面 36
5.7. Hide/Show Columnsボタン選択画面 37
5.8. 表示項目一覧画面 38
5.9. 表示項目一覧結果画面 39
5.10. 証明書のエラー画面 40
5.11. CL/Webログイン画面イメージ 41
5.12. CL/Webログイン後の画面 42
5.13. JobCenter CL/Webログアウト画面イメージ 43
5.14. グループ選択画面イメージ 44
5.15. ジョブネットワークの表示 45
5.16. ジョブネットワーク表示テーブルでの[即時投入]の選択画面 46
5.17. [即時投入]のダイアログ 46
5.18. [JNWの制御]のダイアログ 47
5.19. 即時投入成功 47
5.20. ジョブネットワーク表示画面での[即時投入]の選択画面 47
5.21. トラッカ表示テーブルでのトラッカ表示画面 50
5.22. 設定 52
5.23. [設定]のダイアログ 52
5.24. 詳細ボタン 53
5.25. [フィルタの編集]ダイアログ 53
5.26. ジョブフロー表示画面 54
5.27. 部品の詳細画面 55
5.28. 部品の詳細画面 56
5.29. グループ名選択画面 57
5.30. ポップアップメニュー表示画面 58
5.31. 投入の時間を変更画面 59
5.32. 単位ジョブトラッカ部品の詳細画面 60
5.33. サブジョブネットワークトラッカ部品の詳細画面 61
5.34. ダイアログトラッカ部品の詳細画面 62
5.35. ジョブ待ち合わせ部品の詳細画面 63
5.36. マシン一覧表示画面 65
5.37. マシン選択画面 66
5.38. キュー一覧表示画面 66
5.39. キュー選択画面 68
5.40. キュー制御開始画面 68
5.41. キュー制御終了画面 69
5.42. ユーザタブ選択画面 69
5.43. ユーザタブ選択画面 70

6.1. メール送信ボタン表示画面 73
6.2. メール送信設定画面 73
6.3. メール送信設定画面 74
6.4. ケーススタディ画面 1 75
6.5. CL/Winでのメール設定画面例 76
6.6. ケーススタディ画面２ 78

表目次

1.1. CL/Webの機能一覧 2
2.1. CL/Webサーバのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量 10
3.1. clweb.confのパラメータの設定値(ポート番号指定) 19
5.1. ステータスバー機能説明 34
5.2. 待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ可能操作一覧 63
6.1. clweb.confのパラメータの設定値(SMTPサーバ指定) 72
9.1. CL/Webサーバエラーメッセージ内容 84
9.2. Webブラウザエラーメッセージ内容 85

第1章 概要

本章では、JobCenter CL/Webの概要について説明します。

JobCenter CL/Webは、Webブラウザを使用して実行状態の監視、ジョブネットワークの即時投入やパラメータの確認を行うことができます。

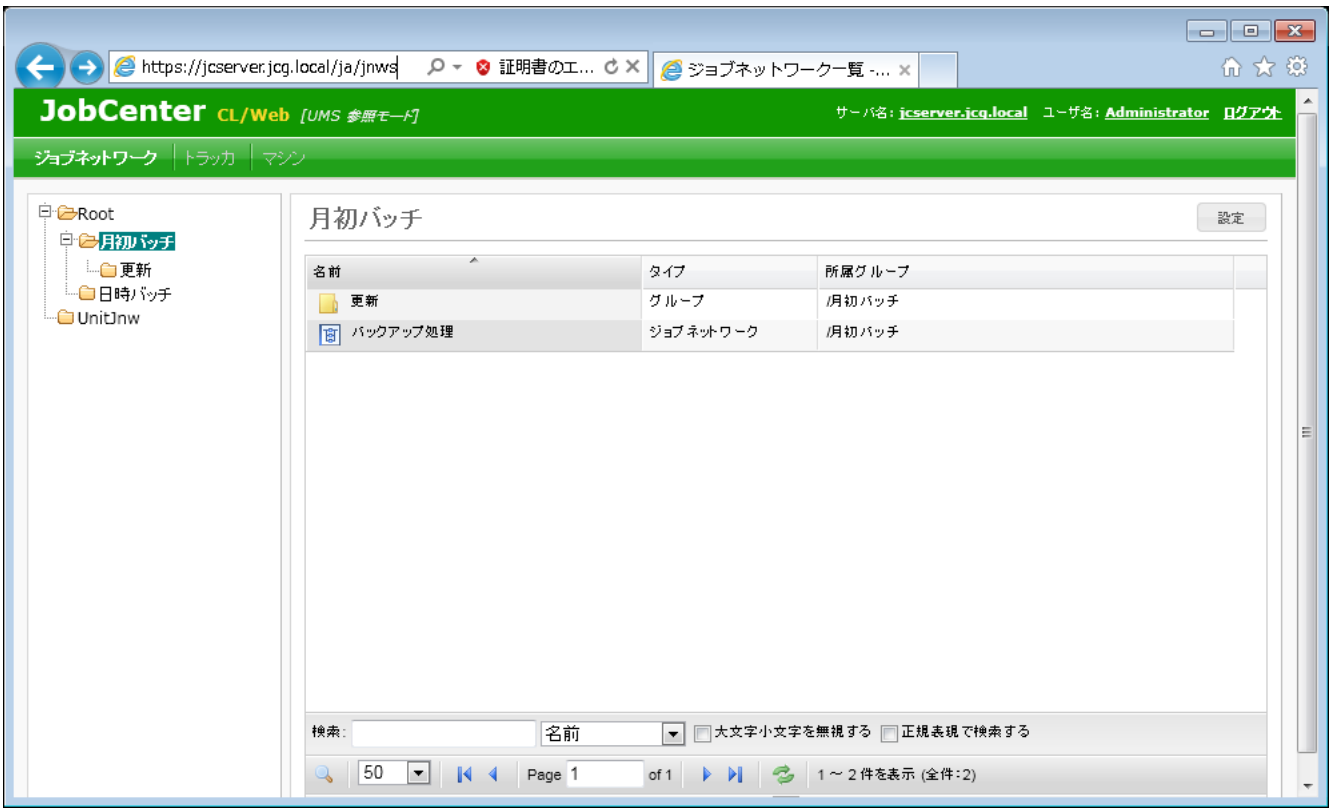

図1.1 JobCenter CL/Web画面イメージ

■略語表記について

JobCenter CL/Webを示す場合は"CL/Web"と表記します。

JobCenter CL/Webサーバを示す場合は"CL/Webサーバ"と表記します。

1.1. 機能概要

CL/Webの主な概要は次のとおりです。

表1.1 CL/Webの機能一覧

カテゴリ	機 能	説 明
ジョブネットワーク	ジョブネットワーク一覧を表示する	詳細は「5.4.1　グループを参照する」を参照してください。
	ジョブネットワークを即時投入する	詳細は「5.4.3 ジョブネットワークを即時投入する」を参照してください。
	ジョブネットワークの定義情報を確認する	詳細は「5.4.2 ジョブネットワークを参照する」を参照してください。
	ジョブネットワーク一覧から検索する	詳細は「5.1.2 検索機能」を参照してください。
トラッカ	トラッカ一覧を表示する	詳細は「5.5.1.1 トラッカ一覧を表示する」を参照してください。
	トラッカやトラッカ部品の操作をする	詳細は「5.5.2.1 ジョブネットワークトラッカを操作する」を参照してください。
	トラッカ一覧から検索する	詳細は「5.1.2 検索機能」を参照してください。
	監視のためのフィルタの設定をする	詳細は「5.5.1.2 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」を参照してください。
	トラッカ画面のURLをメール送信する	詳細は「6.1.2　メール送信機能設定」を参照してください。
マシン	マシン一覧を表示する	詳細は「5.6.1 マシン一覧を参照する」を参照してください。
	キュー一覧を表示する	詳細は「5.6.2 キュー一覧を参照する」を参照してください。
	キューの操作を行う	詳細は「5.6.3　キューを操作する」を参照してください。
	ユーザを表示する	詳細は「5.6.4 ユーザー一覧を参照する」を参照してください。
	各一覧の画面から検索する	詳細は「5.1.2 検索機能」を参照してください。

1.2. 導入の効果

CL/Webを導入することによってインストールレスのクライアントを利用して異常ジョブの確認やジョブネットワークの即時投入等、ジョブの運用・監視を行うことができます。

■導入の効果 その1

従来では監視端末ごとに専用のクライアント(JobCenter　CL/Win)のインストールが必要でしたが、CL/Webを導入することにより専用クライアントをインストールすることなくWebブラウザから監視が可能となります。

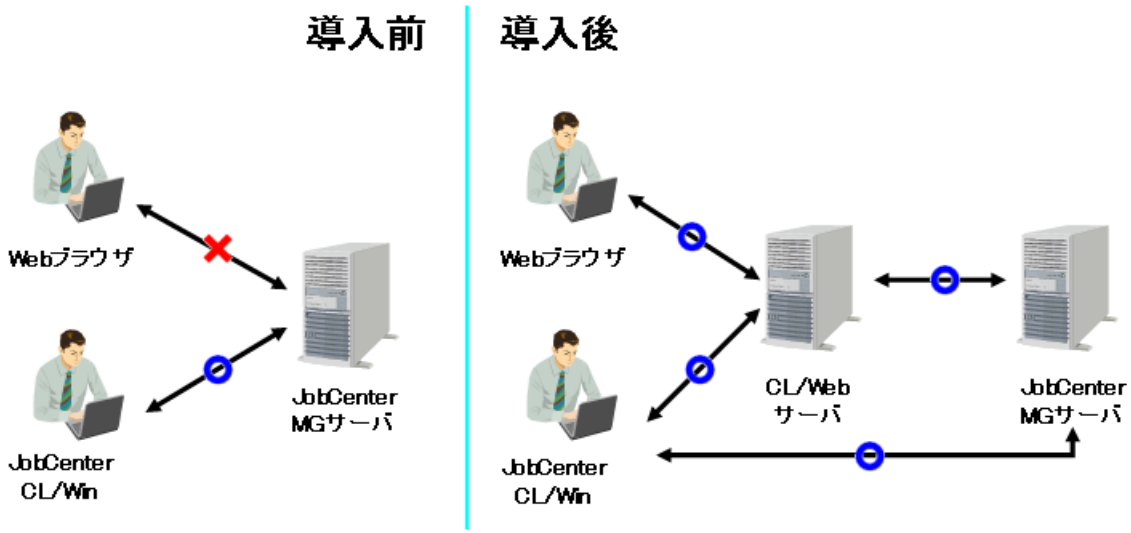

図1.2 導入の効果1

■導入の効果 その2

従来ではジョブのエラーが発生した場合トラッカ名をメールで送信していましたが、MGのメール送信機能はエラーが発生した状態のトラッカ画面のURL情報を設定したメールアドレス宛てに送信することが可能となります。詳細については「6.1 メール送信機能詳細」を参照してください。

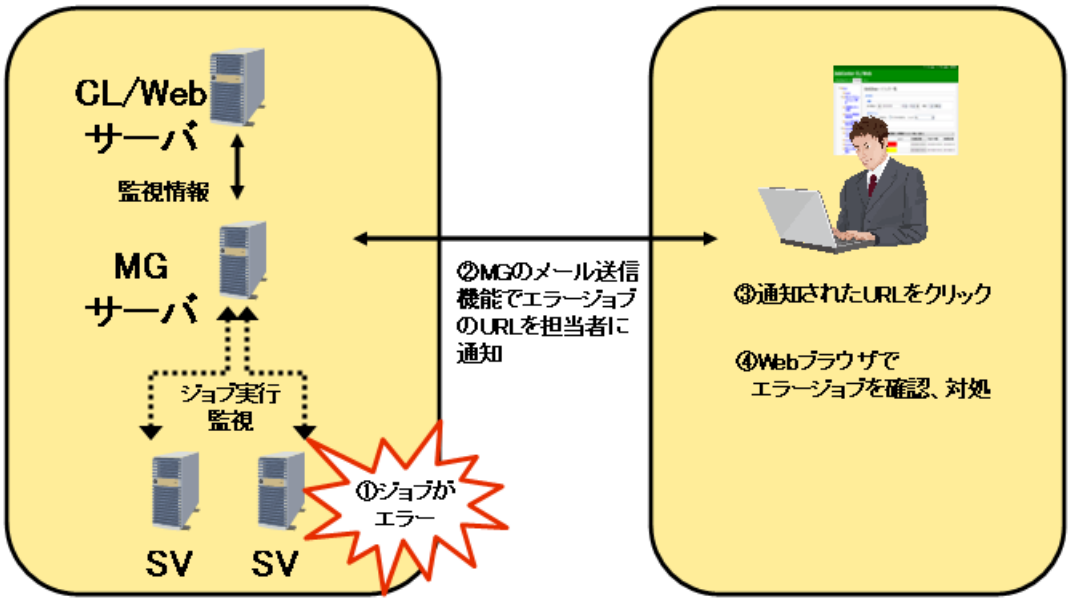

図1.3 導入の効果2

■導入の効果 その3

イベント連携機能でビューアが出力するイベントメッセージにトラッカURL情報を示すマクロを出力することが可能となります。詳細については「6.2 マクロ機能」を参照してください。

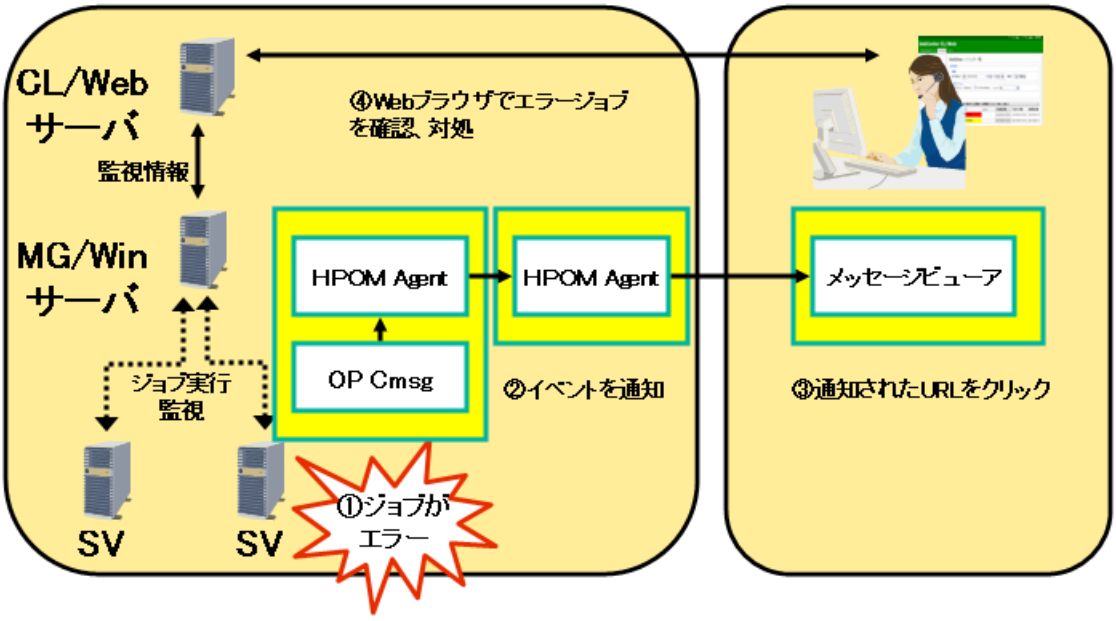

図1.4 導入の効果3(HPOM製品での例)

1.3. ライセンスについて

CL/Webは、JobCenterのオプションとして別途有償にて提供されているものです。

本機能を利用したい場合は、JobCenter CL/Webのライセンスの購入が必要となります。

1.4. 動作環境

CL/Webの動作環境については <リリースメモ>の「3.1.5 JobCenter CL/Webの対応OS・必須ソフトウェア・ブラウザ詳細」を参照してください。

1.5. 用語一覧

Web機能で共通で使用する用語について一覧を記載します。

用語	説明
JobCenter CL/Web	本製品名。Webブラウザを使用して実行状態の監視、ジョブネットワークの即時投入やパラメータの確認を行うことができます。
JobCenter CL/Webサーバ	WebブラウザにHTMLやオブジェクトの表示を提供します。

1.6. JobCenter CL/Web利用までの流れ

JobCenter CL/Webをご利用いただくまでに必要な作業の流れを以下に示します。

CL/Webサーバのインストールの準備をする	…「2.1.1 インストール前の事前準備」
LicenseManagerをインストールする	…「2.1.2 LicenseManagerのインストール」
コードワードを登録する	…「2.1.2 LicenseManagerのインストール」
CL/Webサーバをインストールする	…「2.1.3 CL/Webサーバのインストール」
CL/Webサーバの環境設定を行う	…「3.1 CL/Webサーバ」
CL/Webサーバを起動する	…「4.1 CL/Webサーバ起動」
Webブラウザの環境設定を行う	…「3.2 Webブラウザ」
WebブラウザでCL/Webサーバにアクセスする	…「5.2 ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする」

図1.5 JobCenter CL/Web利用までの流れ

第2章 CL/Webサーバのインストール・アンインストール

本章では、CL/Webサーバのインストール・アンインストール手順について説明します。

2.1. インストール

LicenseManager、CL/Webサーバのインストールの手順を示します。

2.1.1. インストール前の事前準備

インストール前に必ず行う必要がある作業と確認事項について次に説明します。

■JREのインストール

CL/Webはインストーラの内部でJavaを使用してセットアップを行います。そのため、CL/Webサーバをインストールする前にはOracle社から提供されているJava　　SEのJRE6以降をインストールする必要があります。

最新バージョンはOracle社のWebサイトからダウンロードしてください。

RedHat　Linux　5にCL/Webサーバをインストールする場合、デフォルトでインストールされているJREのバージョンが古いため、Oracle社から提供されているJava SEのJRE6以降をインストールしてください。

■CL/Webサーバの停止とアンインストール(UNIX/Windows共通)

既にCL/Webサーバがインストールされている環境については、CL/Webサーバの停止とアンインストールを行う必要があります。

CL/Webサーバの停止とアンインストールについては「2.2　アンインストール」を参照してください。

2.1.2. LicenseManagerのインストール

LicenseManagerのインストール方法について説明します。

LicenseManagerはランセンス管理用製品です。

CL/Webサーバを動作させるために必要な製品ですのでインストールしてください。LicenseManagerのインストールについては<インストールガイド>の「2.2　LicenseManagerをインストールする」を参照してください。

コードワードの登録については<インストールガイド>の「2.3　コードワードを登録する」を参照してください。

2.1.3. CL/Webサーバのインストール

CL/Webサーバのインストール方法について説明します。

CL/Webサーバのインストールに必要な固定ディスクとメモリ容量を以下の通りです。

表2.1 CL/Webサーバのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量

固定ディスク容量	70 MB
メモリ容量	100 MB

2.1.3.1. UNIX版 CL/Webサーバのインストール

UNIX版のCL/Webサーバのインストール手順を示します。

1. rootユーザでログインします。

2. JobCenterメディア(DVD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法については対象OSの製品マニュアルなどを参照してください。

3. メディア内のCL/Webパッケージを適当なディレクトリに展開します。

```
root> cd <パッケージを展開するディレクトリ>
root> unzip <CLWEB_PRODUCT_PATH>
```

<CLWEB_PRODUCT_PATH>は、パッケージファイルのパス(<メディアのマウント先ディレクトリ>/PACKAGE/JB/OTHER/CLWEB/NECJCpkg-clweb.zip)を表します。

パッケージ展開先にはマルチバイトを含むパスを使用できません。もし使用すると次項のインストールスクリプトの実行で失敗します。

4. 次のスクリプトを実行します。

```
root> <パッケージを展開したディレクトリ>/clweb_install.sh
```

インストールパスを聞かれるのでデフォルトのパスでよければyを選択し、インストールパスを変更する場合はnを選択します。

```
Do you use default install path('/usr/local/jcclweb')? (y/n)
```

nを選択した場合は次のメッセージが表示されるのでインストールパスを指定する必要があります。

```
Please input install path.
/var/jcclweb
```

インストールパスを[/var/jcclweb]に変更する場合で説明します。

・インストールパスには半角スペース、マルチバイトを含むパスを使用できません。

・既にCL/Webサーバがインストールされている場合は、警告が出てインストール作業を中断します。

・指定したフォルダ名が既に存在している場合は、メッセージ(Already exists and is not an empty directory.)が出てインストール作業を中断します。空のディレクトリであればインストールを継続します。

デフォルトのパスを聞かれてyを選択した場合とインストールパスを指定した場合はインストールが開始されます。

JREがインストール済みであるにもかかわらず「Cannot find Java 1.5 or higher.」とメッセージが表示されてCL/Webサーバのインストールを実行できない場合は、[clweb_install.sh]の実行前に環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスを設定してください（以下は/bin/shを用いた場合の設定例です）。

```
JAVA_HOME=<JREのインストールパス>
export JAVA_HOME
```

5. コマンド実行後にエラーがなければ、次のメッセージが表示されます。インストールは正常に終了しています。

```
Install finished successfully.
```

6. インストールが正常終了した後は3章 「環境設定」 へ進んでください。

2.1.3.2. Windows版 CL/Webサーバのインストール

Windows版のCL/Webサーバのインストール手順を示します。

ここではCD/DVD-ROMドライブをQ: ドライブとして説明します。CD/DVD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

1. ローカルのAdministratorユーザでログインします。
2. JobCenterメディア(DVD-ROM)をセットして、メディア内のCL/Webパッケージ(Q:\PACKAGE\JB\OTHER\CLWEB\NECJCpkg-clweb.zip)をローカルディスク上の任意の場所にコピーします。
3. 「NECJCpkg-clweb.zip」をOSの展開機能や解凍ツールを使用して適当なディレクトリに展開します。

パッケージ展開先にはマルチバイトを含むパスを使用できません。もし使用すると次項のインストールスクリプトの実行で失敗します。

4. コマンドプロンプトを起動します。コマンドプロンプトはWindowsの［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］ から起動できます。
5. コマンドプロンプト上で[clweb_install.bat]を実行します。

```
<パッケージを展開したディレクトリ>\clweb_install.bat
```

インストールパスを聞かれるのでデフォルトのパスでよければyを選択し、インストールパスを変更する場合はnを選択します。

```
Do you use default install path('C:\jcclweb')? (y/n)
```

nを選択した場合は次のメッセージが表示されるのでインストールパスを指定する必要があります。

```
Please input install path.
D:\jcclweb
```

インストールパスを[D:\jcclweb]に変更する場合で説明しています。

・インストールパスにはマルチバイトを含むパスを使用できません。

・既にCL/Webサーバがインストールされている場合は、警告が出てインストール作業を中断します。

> ・指定したフォルダ名が既に存在している場合は、メッセージ(Already exists and is not an empty directory.)が出てインストール作業を中断します。空のフォルダであればインストールを継続します。

デフォルトのパスを聞かれてyを選択した場合とインストールパスを指定した場合はインストールが開始されます。

JREがインストール済みであるにもかかわらず「Cannot find Java 1.5 or higher.」とメッセージが表示されてCL/Webサーバのインストールを実行できない場合は、[clweb_install.bat]の実行前に環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスを設定してください。

```
set JAVA_HOME=<JREのインストールパス>
```

6. コマンド実行後にエラーがなければ、次のメッセージが表示されます。インストールは正常に終了しています。

```
Start CL/Web service regist
Finish CL/Web service regist
Install finished successfully.
Finish. Please Push a Key...
```

上記表示後、キーを押下してプロンプトに戻ります。

7. インストールが正常終了した後は3章 「環境設定」 へ進んでください。

2.2. アンインストール

LicenseManager、CL/Webサーバのアンインストールの手順を示します。

2.2.1. LicenseManagerのアンインストール

LicenseManagerのアンインストールについては<インストールガイド>の「4.1　LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

2.2.2. CL/Webサーバのアンインストール

2.2.2.1. UNIX版 CL/Webサーバのアンインストール

UNIX版のCL/Webサーバのアンインストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.1 UNIX版 CL/Webサーバ停止」を参照してください。
2. 次のコマンドを実行してアンインストールを行います。

```
%InstallDirectory%/run/clweb_ctrl.sh uninstall
```

3. %InstallDirectory%を削除します。

2.2.2.2. Windows版 CL/Webサーバのアンインストール

Windows版のCL/Webサーバのアンインストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.2　Windows版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。
2. 次のコマンドを実行してアンインストールを行います。

```
%InstallDirectory%\run\clweb_service.bat uninstall
```

3. %InstallDirectory%を削除します。

2.3. バージョンアップ

CL/Webサーバのバージョンアップの手順を示します。

2.3.1. UNIX版 CL/Webサーバのバージョンアップ

UNIX版のCL/Webサーバのバージョンアップ手順を示します。

1. CL/Webのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.1　UNIX版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。
2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/config/clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のディレクトリをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.1 UNIX版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。
4. 新しいバージョンのCL/Webサーバをインストールします。
5. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.3.2. Windows版 CL/Webサーバのバージョンアップ

Windows版のCL/Webサーバのバージョンアップ手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.2　Windows版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。
2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\config\clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のフォルダをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.2 Windows版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。
4. 新しいバージョンのCL/Webサーバをインストールします。
5. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.4. 再インストールが必要となる場合

次の場合、CL/Webサーバの再インストールが必要となります。

■JREのバージョンアップ等により、JREのインストールパスが変更される場合

■LicenseManagerの再インストール等により、LicenseManagerのインストールパスが変更される場合

■CL/Webサーバのインストールパスを変更したい場合

2.4.1. UNIX版 CL/Webサーバの再インストール

UNIX版のCL/Webサーバの再インストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.1 UNIX版 CL/Webサーバ停止」を参照してください。

2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/config/clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のディレクトリをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.1 UNIX版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。

4. JREのバージョンアップやLicenseManagerの再インストール等を実施します。

5. CL/Webサーバを再インストールします。

6. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.4.2. Windows版 CL/Webサーバの再インストール

Windows版のCL/Webサーバの再インストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.2　Windows版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。

2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\config\clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のフォルダをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.2 Windows版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。

4. JREのバージョンアップやLicenseManagerの再インストール等を実施します。

5. CL/Webサーバを再インストールします。

6. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

第3章 環境設定

本章では、CL/Webの環境設定について説明します。

3.1. CL/Webサーバ

3.1.1. 使用ポートの設定

CL/Webサーバがデフォルトで通信するプロトコルはSSLです。CL/Web環境設定ファイルclweb.confに使用するポート番号を記載することで通信が可能となります。

CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf)格納場所は次の通りです。

```
%InstallDirectory%\config\clweb.conf
```

CL/Web環境設定ファイルclweb.confファイルは、デフォルトでは次のフォーマットになっています。

```
# $port = 443
# $bind = "0.0.0.0"
# $ssl_disable = false
# $jccombase = 611
# $mail_server = "smtpserver"
# $mail_port = 25
# $mail_domain = ""
# $mail_authentication = "plain"
# $mail_username = "username"
# $mail_password = "password"
# $mail_from = ""
```

clweb.confファイルのポート番号設定方法は次の通りです。

1. ポート変数$portの行の先頭に#記号がついているので#記号を削除する。

   #記号以降はコメントアウトとみなされます。#記号が先頭についていると設定が無効となります。設定を有効にするためには、#記号を削除する必要があります。

   ■設定例

   デフォルトポート番号設定前

   ```
   # $port=443
   ```

   デフォルトポート番号設定後

   ```
    $port=443
   ```

2. 設定するポート番号はデフォルトでは443が指定されているので、変更する場合は任意の数値に変更する。

   CL/Webサーバが使用するポートについては、<環境構築ガイド>の「2.1.6　CL/Webサーバが使用するTCPポート」も参照してください。

3. clweb.confファイルを保存する。

   clweb.confファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

表3.1 clweb.confのパラメータの設定値(ポート番号指定)

設定	説明	タイプ	デフォルト設定値
$port	CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信で必要なSSL用のポート番号を指定します。	数値	443

	(SSLを無効にした場合はHTTP用のポート番号を指定します。)		
$bind[注1]	サーバが複数IPアドレスを保持する場合、IPアドレスを指定する必要があります。	文字列	0.0.0.0
$ssl_disable	CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信でSSLを無効にするかどうかをtrueまたはfalseで指定します。 true … SSLを無効にします。CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信にはHTTPを使用します。 false … SSLを有効にします。	真偽値	false
$jccombase	CL/WebサーバがMG/SVと通信するためのポート(JCCOMBASE)を設定します。 MG/SV側で使用するポートを変更していない場合は、設定の必要はありません。	数値	611

■注1 オプションであるため、設定する必要がない場合は変更しないでください。

■文字列を指定する場合はダブルクォーテーションで文字列を囲む必要があります。

■CL/Webサーバをインストールするマシンにファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対してCL/Webサーバが使用するネットワークポートの穴あけ作業を行ってください。

3.2. Webブラウザ

Webブラウザを起動するために必要な設定を説明します。

3.2.1. アクティブスクリプトの設定

Internet Explorerを使用する場合、アクティブスクリプトが有効になっている必要があります。

1. Internet Explorerを起動し、[ツール] - [インターネット オプション]の順にクリックします。
2. セキュリティタブを選択し、インターネットゾーンの[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
3. セキュリティ設定で[アクティブスクリプト]項目で「有効にする」にチェックが入っていることを確認します。チェックが入っていない場合は、「有効にする」にチェックを入れてください。

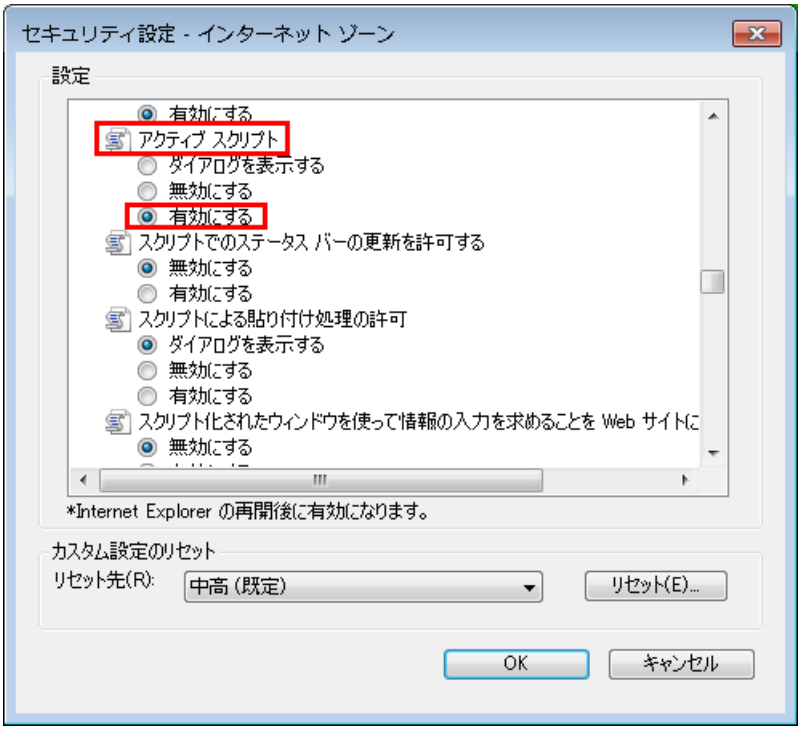

図3.1 アクティブスクリプト設定画面

3.2.2. SSLの設定

CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信でSSLを使用し、Internet Explorerを使用する場合、SSLを使用する設定になっている必要があります。

1. Internet Explorerを起動し、[ツール] - [インターネット オプション]の順にクリックします。
2. 詳細設定タブを選択し、設定の[セキュリティ]項目で次の項目のうちどちらか一つにチェックが入っていることを確認します。

   ■ [SSL 3.0 を使用する]

   ■ [TLS 1.0 を使用する]

3. チェックが入っていない場合は上記の項目について、どちらかにチェックを入れてください。

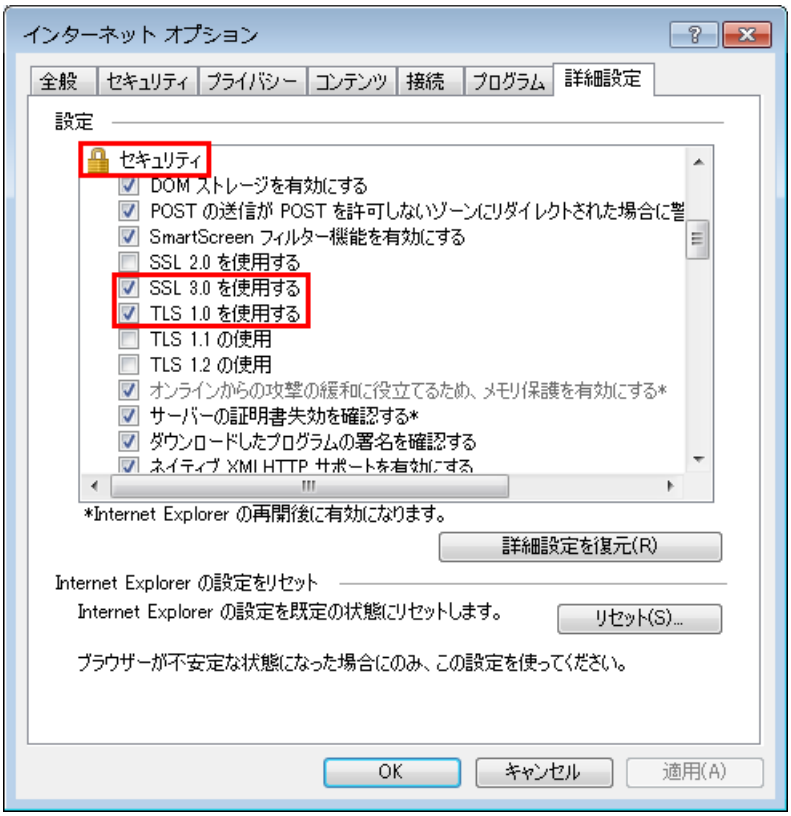

図3.2 SSL設定画面

SSL 2.0はサポートしていません。

3.2.3. Cookieの設定

CL/WebではCookieを使用するため、Cookieを有効にする必要があります

ご使用のブラウザでCookieの受け入れの設定を確認してください。詳しい設定方法については、Internet Explorerのヘルプを参照してください。

第4章 CL/Webサーバ起動・停止

本章では、CL/Webサーバの起動・停止方法について説明します。

4.1. CL/Webサーバ起動

4.1.1. UNIX版 CL/Webサーバ起動

UNIX版のCL/Webサーバはスクリプトの実行でサービスを起動します。

1. 次のスクリプトを実行します。

```
/etc/init.d/jcclweb start
```

4.1.2. Windows版 CL/Webサーバ起動

Windows版のCL/WebサーバはWindowsのサービス機能で起動します。

1. Windowsの[スタート] - [ファイル名を指定して実行]を選択し、名前に[services.msc]を入力して、[OK]をクリックします。

図4.1 ファイル名指定画面

Windowsのサービス機能の起動方法はWindowsのバージョンによって異なります。各Windowsのバージョン毎のサービス機能の起動方法はWindowsのヘルプ等を参照ください。

2. [サービス]が表示されるので、名前で「JobCenter CL/Web Service」を右クリックして[開始]を選択します。

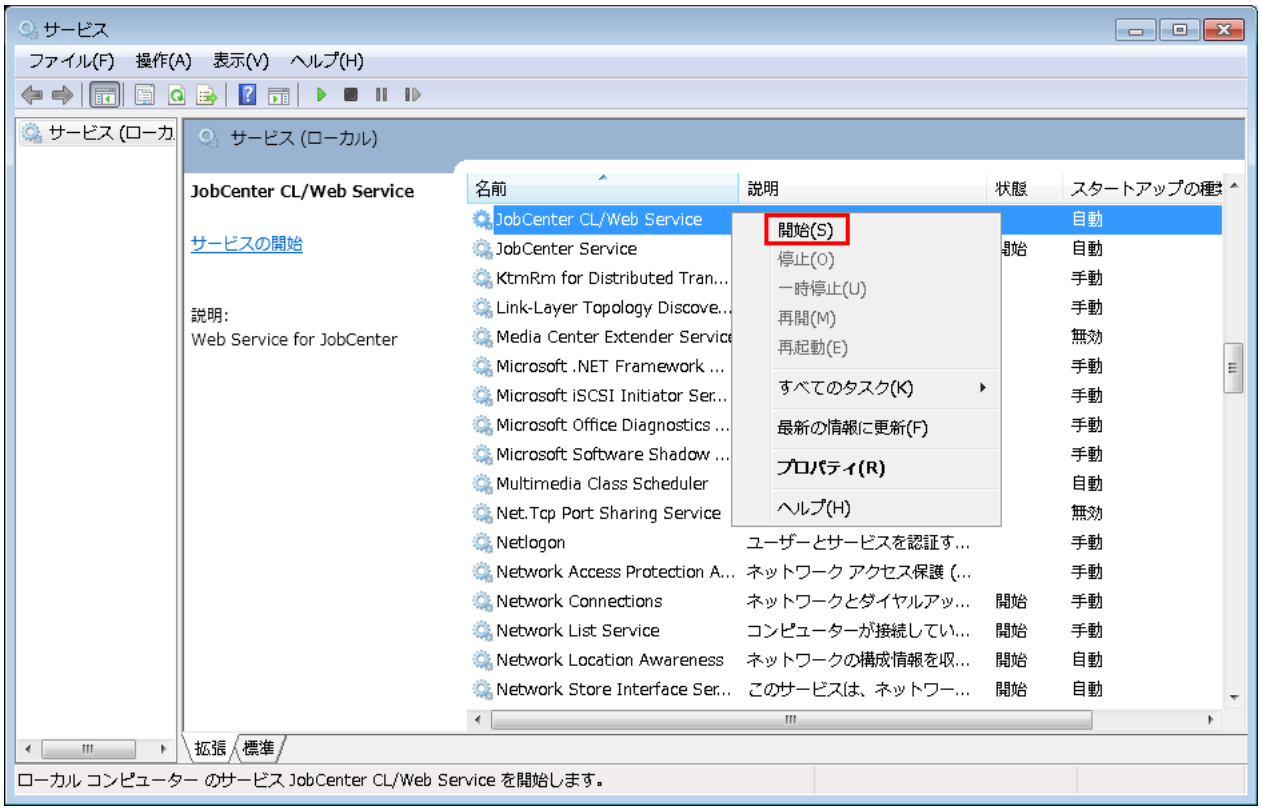

図4.2 サービス起動画面

3. 「JobCenter CL/Web Service」の状態が[開始]になっていれば、CL/Webサーバの起動は完了です。

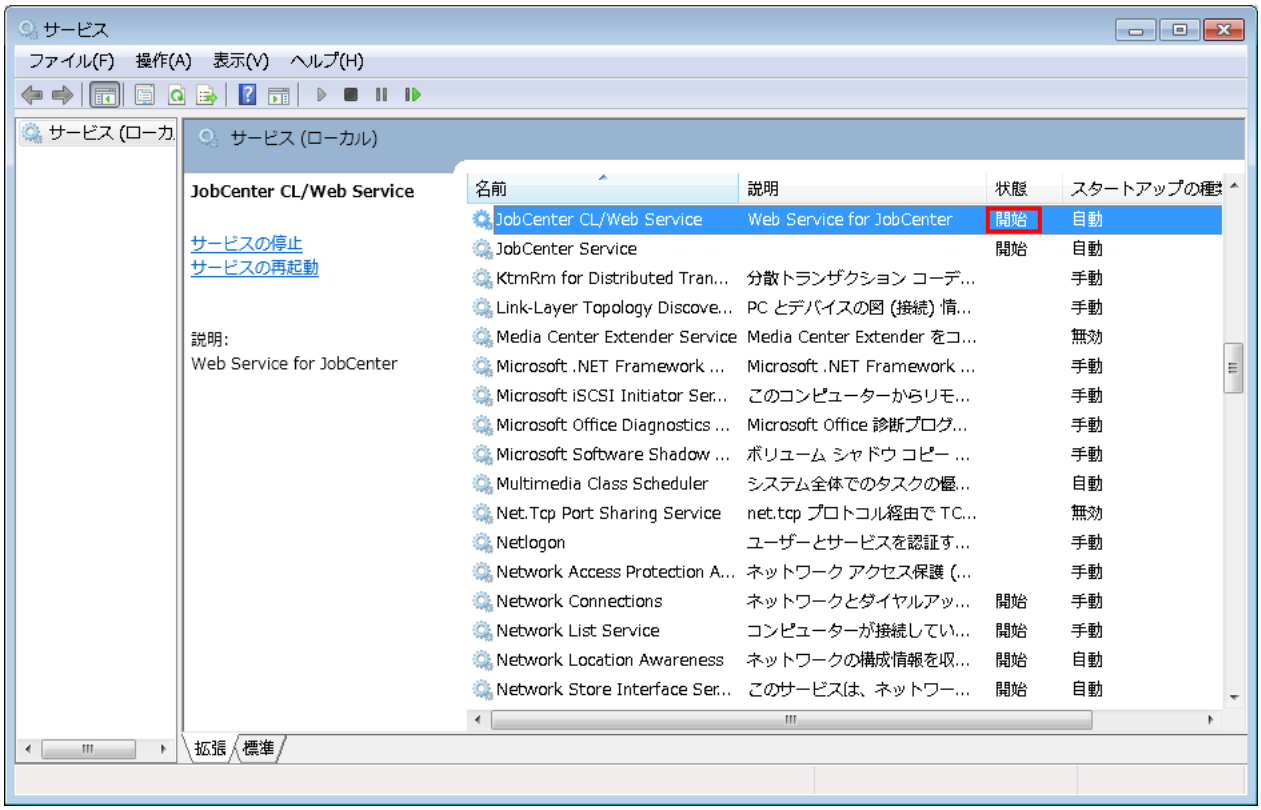

図4.3 サービス開始画面

CL/Webサーバのインストール後はサービスが停止している状態なので、手動で開始する必要があります。

4.2. CL/Webサーバ停止

4.2.1. UNIX版 CL/Webサーバ停止

UNIX版のCL/Webサーバはスクリプトの実行でサービスを停止します。

1. 次のスクリプトを実行します。

```
/etc/init.d/jcclweb stop
```

4.2.2. Windows版 CL/Webサーバ停止

Windows版のCL/WebサーバはWindowsのサービス機能で停止します。

1. Windowsのサービスを起動します。詳細については「4.1.2　Windows版　CL/Webサーバ起動」を参照してください。

2. [サービス]が表示されるので、名前で「JobCenter CL/Web Service」を右クリックして[停止]を選択します。

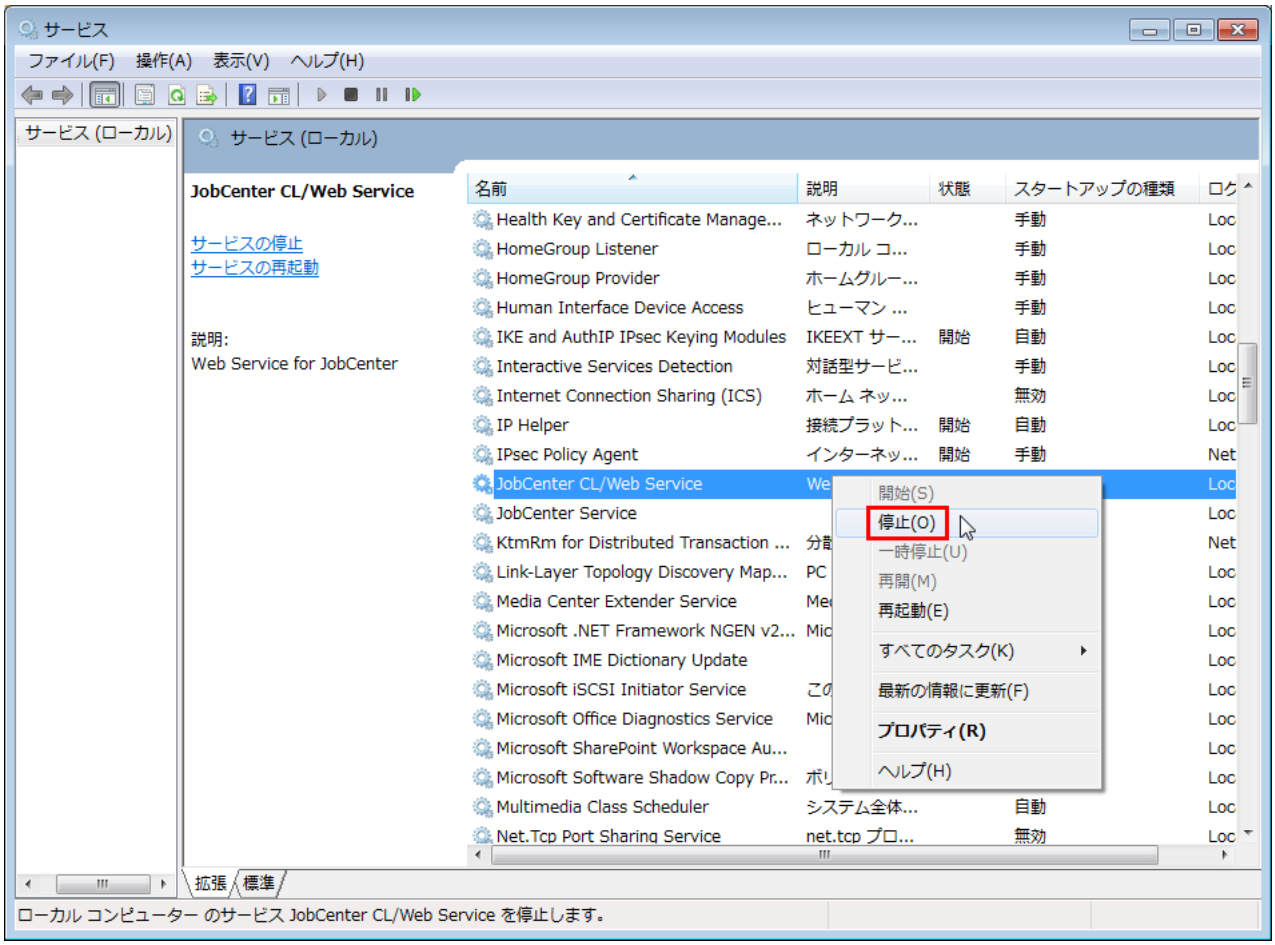

図4.4 サービス停止画面

3. 「JobCenter CL/Web Service」の状態が次の画面のように空白になっていれば、CL/Webサーバの停止は完了です。

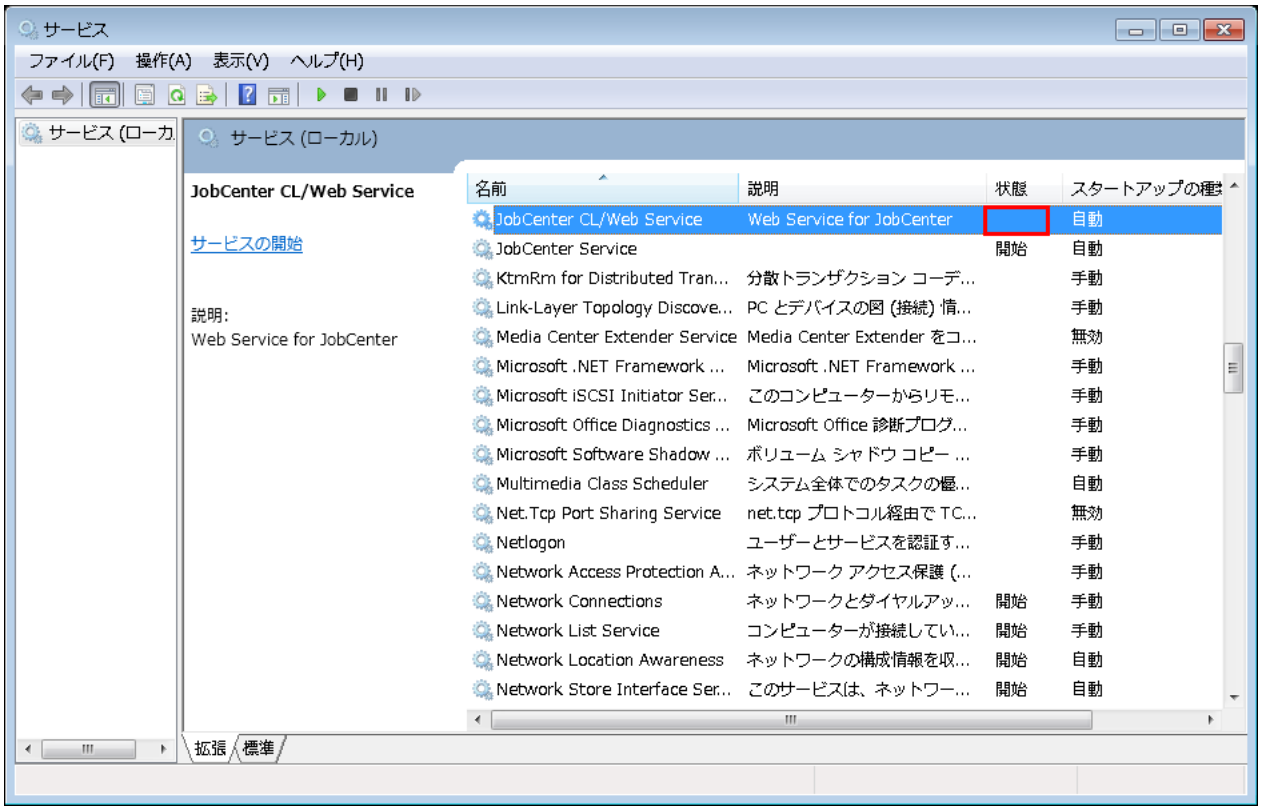

図4.5 サービス停止画面

第5章 基本操作

本章では、CL/Webの基本機能に対する操作方法について説明します。

本章はSSLが有効であることを前提として説明しています。SSLを無効にしている場合は、説明中のCL/WebサーバのURLの「https」を「http」に適宜読み替えてください。

5.1. CL/Webの基本的な操作方法

次に本書で用いている基本的な操作方法を例示します。

5.1.1. CL/Web画面 各部の名称と概要

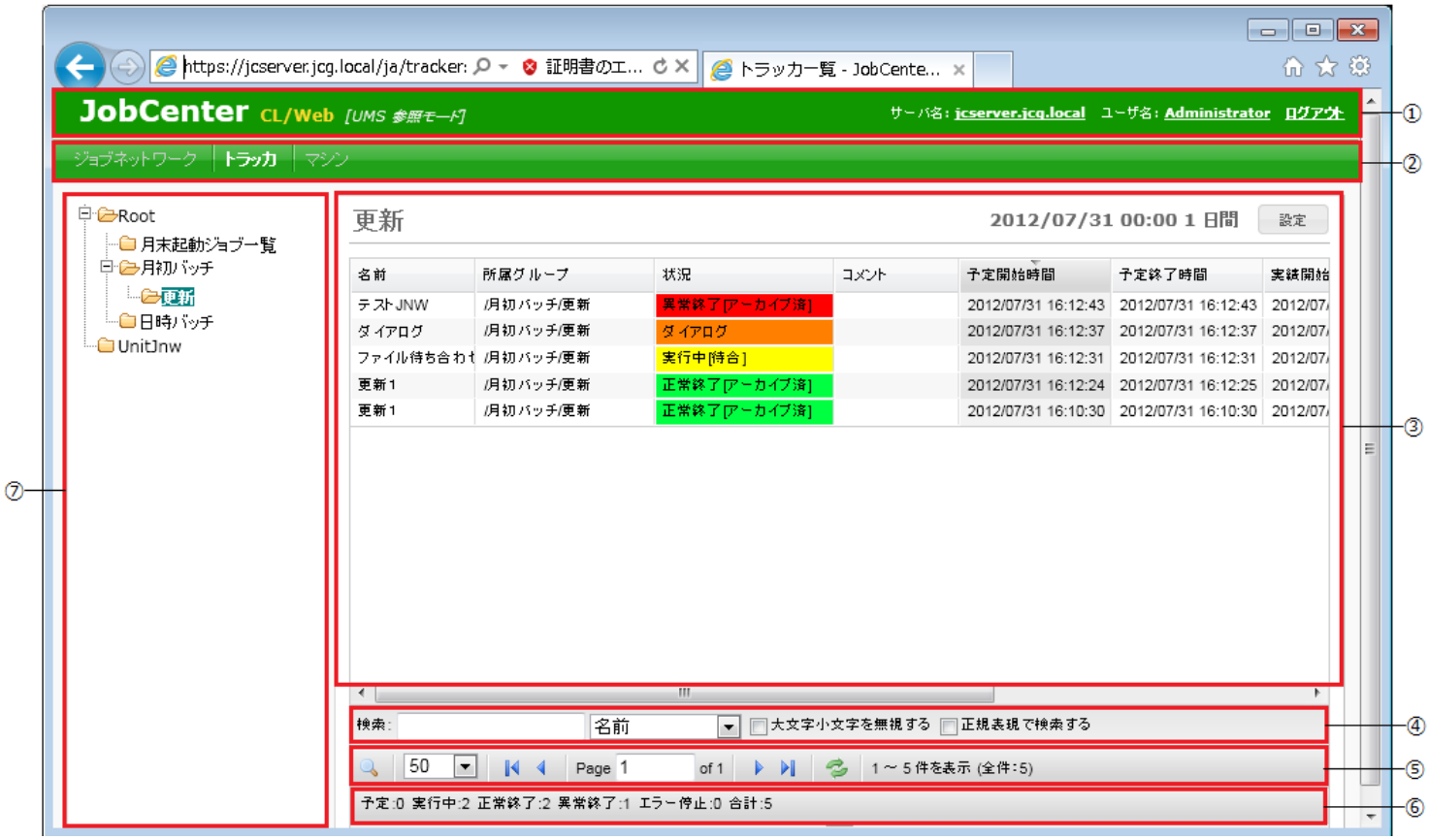

図5.1 CL/Web画面

CL/Web画面の各部の名称について説明します。

領域名	説明
①タイトルバー	JobCenter製品であることを示すヘッダです。 ■製品名 JobCenter CL/Webが表示されます。 ■ユーザモード ログインしたユーザによってUMSまたはEUIが表示されます。 また、ログイン時に選択したモードが表示されます。 ログインユーザ別のGUI画面モード、サーバ接続時の登録モードについては<基本操作ガイド>の「2.3.3　ログインユーザ別のGUI画面モード、サーバ接続時の登録モード」を参照してください。 ■サーバ名

領域名	説明
	サーバ名が表示されます。 クリックするとサーバ情報がダイアログで表示されます。 ■ユーザ名 CL/Webにログインしたユーザ名が表示されます。 クリックするとユーザ情報がダイアログで表示されます。 ■ログアウト クリックするとログイン画面が表示されます。
②ナビゲーションバー	ジョブネットワーク、トラッカ、マシンの各メニューが表示されます。
③表示テーブル	ナビゲーションバーで選択したメニューにより、表示内容が変わります。 ■ジョブネットワークメニュー ジョブネットワーク一覧が表示されます。 ■トラッカメニュー トラッカメニュー一覧が表示されます。 ■マシンメニュー マシン一覧が表示されます。
④検索バー	プルダウンメニューの項目を指定して検索することができます。
⑤ステータスバー	トラッカ表示数の選択、ページ移動、トラッカ画面の更新ができます。
⑥統計情報バー	トラッカの状態(予定、実行中)などの数を表示されます。統計情報バーはトラッカ画面のみ表示されます。
⑦ツリービュー	グループのツリー構成が表示されます。

5.1.2. 検索機能

CL/Webには各ナビゲーションバー毎に検索バーとステータスバーが存在します。

検索バーとステータスバーの使用方法を次に説明します。

5.1.2.1. 検索バー

1. プルダウンメニューより検索したい項目を選択します。

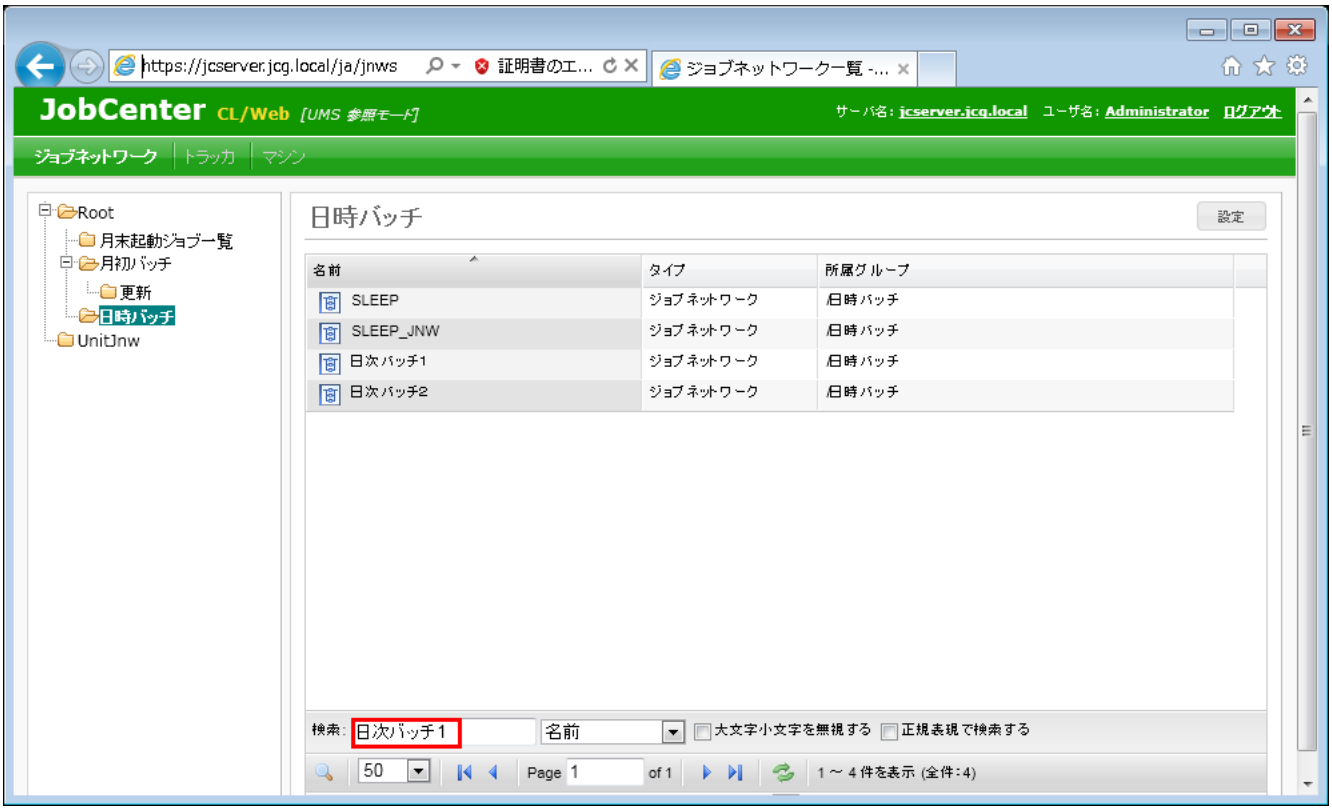

図5.2 検索バー画面

2. 検索用のテキストボックスに検索名を入力してキーボードの「Enter」を押下する。

3. 検索バーで設定した内容が表示されます。

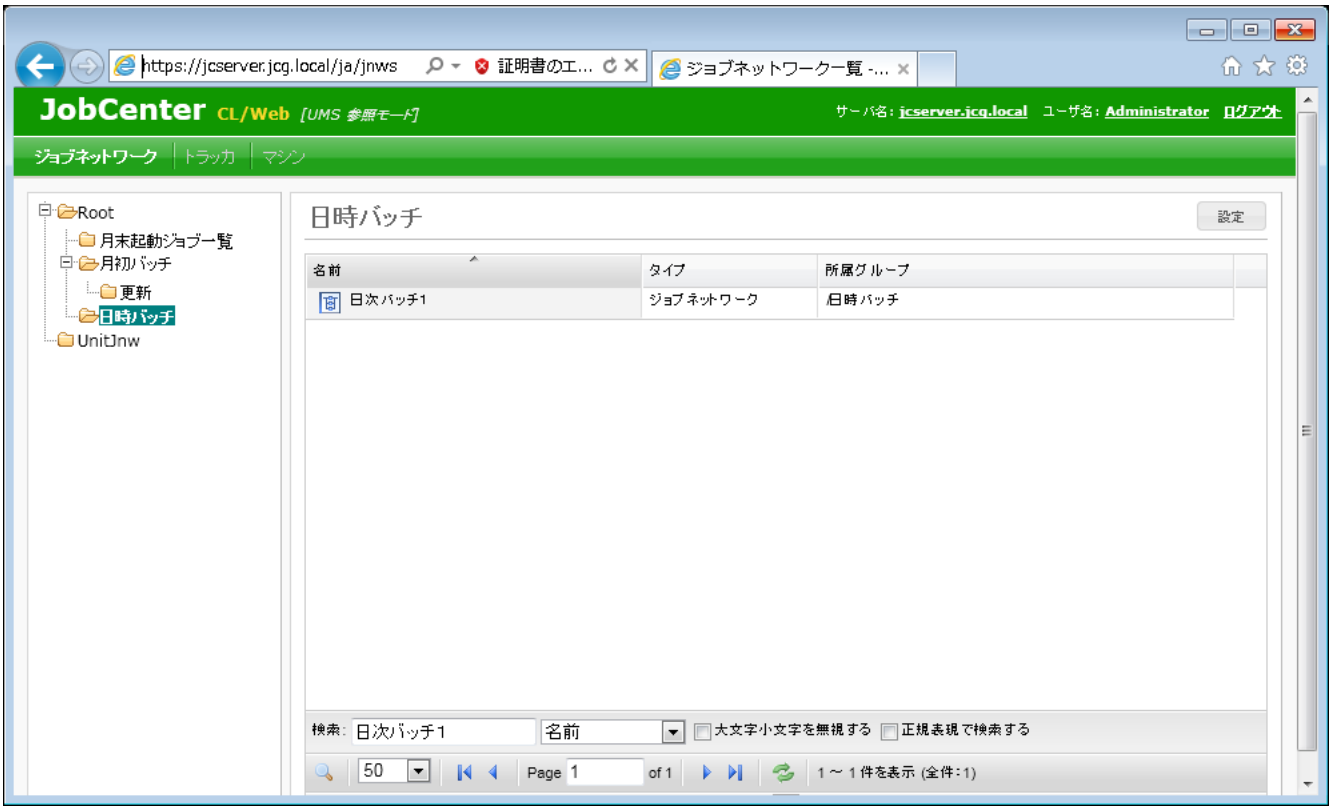

図5.3 検索結果画面

検索バーの設定項目は次のとおりです。

■検索

検索文字列を入力します。

■大文字小文字を無視する

チェックボックスにチェックを入れると検索文字列の大文字小文字を意識することなく検索できます。

■正規表現で検索する

チェックボックスにチェックを入れるとPerl互換の正規表現が使用できます。

「正規表現で検索する」をチェックしない場合は、完全一致検索を行います。

5.1.2.2. ステータスバー

ステータスバーでは表示行数の設定、ページの遷移、表示テーブルの更新などが行うことができます。

図5.4 ステータスバー画面

画面に表示している各番号の機能について次に説明します。

表5.1 ステータスバー機能説明

番号	説明
①	クリックすると検索バーの表示を隠すことができます。元に戻す場合は再度クリックします。
②	プルダウンメニューより表示テーブルに表示する行数の範囲を指定することができます。指定範囲は10、15、20、30、50、100、200です。
③	クリックすると先頭ページに移動します。
④	クリックすると１ページ前に移動します。
⑤	現在のページ番号を表示しています。また、ページ番号を入力してキーボードの「Enter」を押下すると、指定したページに移動します。
⑥	クリックすると１ページ後に移動します。
⑦	クリックすると最後のページに移動します。
⑧	クリックすると表示テーブルを最新状態に更新します。
⑨	表示されている件数が表示されます。②で指定した範囲によって表示範囲が変わります。
⑩	検索バーとステータスバーを上下に移動できます。ステータスバーの最下方部をクリックしたままカーソルを上下に移動させると検索バーとステータスバーが上下に移動します。

⑧の機能でツリービューの更新はできません。ツリービューを更新する場合はF5ボタンかブラウザの更新機能を使用してください。

5.1.3. ソート機能

表示テーブル内の各項目について辞書順にソートすることができます。

ソート方法について次に説明します。

1. 項目名タブにカーソルを合わせクリックします。

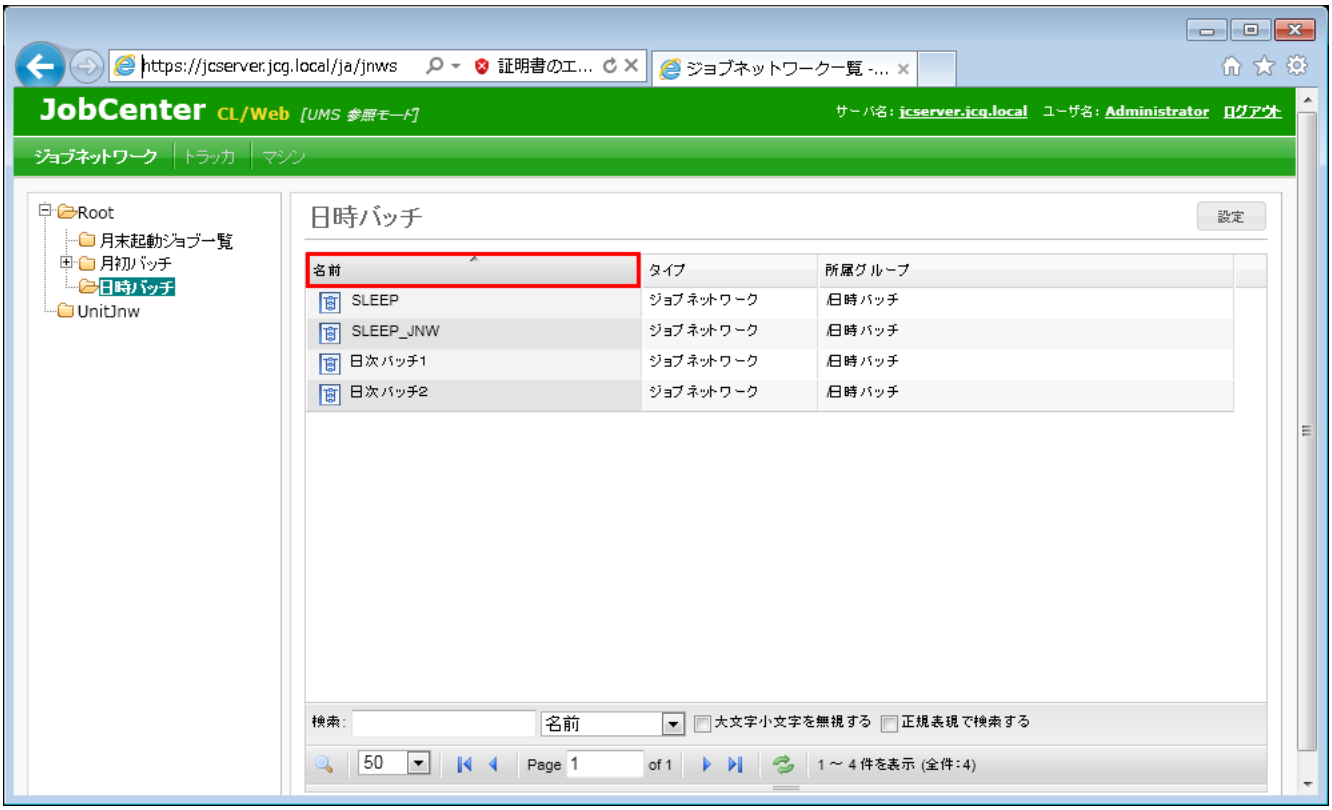

図5.5 ソート前の画面

2. 辞書順にソートされます。元に戻すときは、再度項目名タブにカーソルを合わせクリックします。

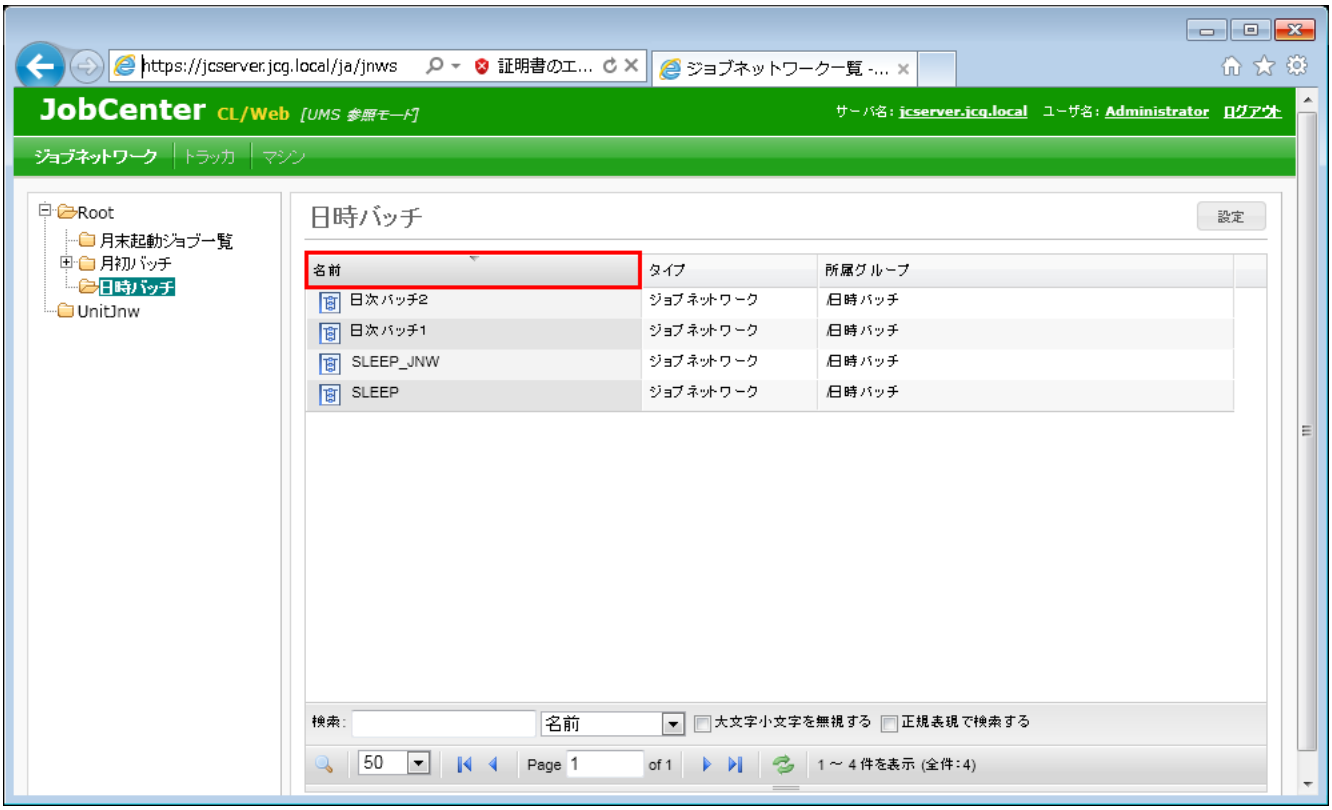

図5.6 ソート後の画面

全ての項目においてソート機能を適用することができます。

5.1.4. 表示テーブル内の項目表示機能

表示テーブル内の項目はデフォルト値以外にも項目の表示ができます。また、項目を非表示にすることもできます。

表示テーブル内の項目表示機能について次に説明します。

1. 項目名タブのカーソルを合わせると右端に[Hide/Show　　Columns]ボタンが表示されるので、[Hide/Show Columns]ボタンをクリックする。

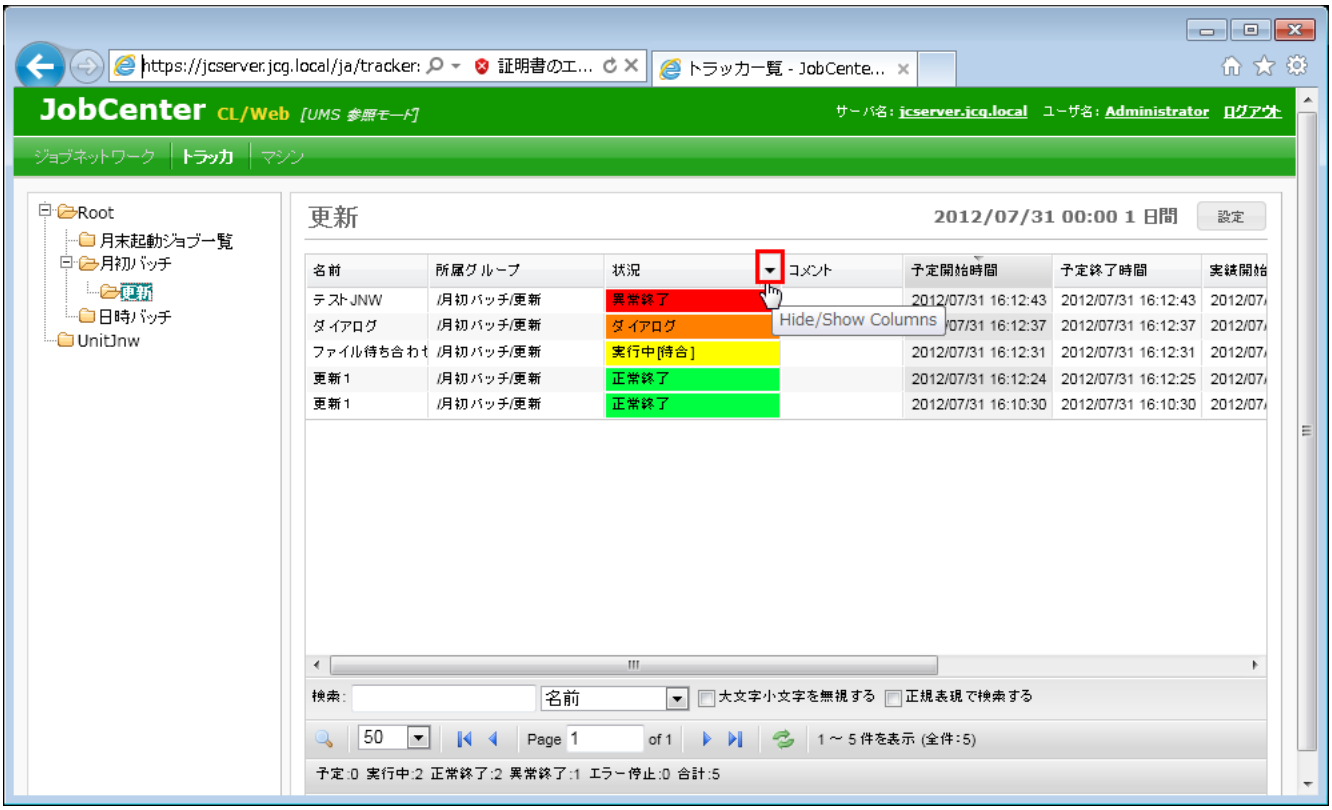

図5.7 Hide/Show Columnsボタン選択画面

表示テーブル内の項目であればどの項目名タブで操作しても同じ表示になります。

2. 選択可能な表示項目一覧が表示されるのでデフォルト値以外で表示したい項目にチェックを入れます。今回は[ナビゲーションバー] > [トラッカ] > [ジョブネットワーク名]の「状況クラス」にチェックをいれます。

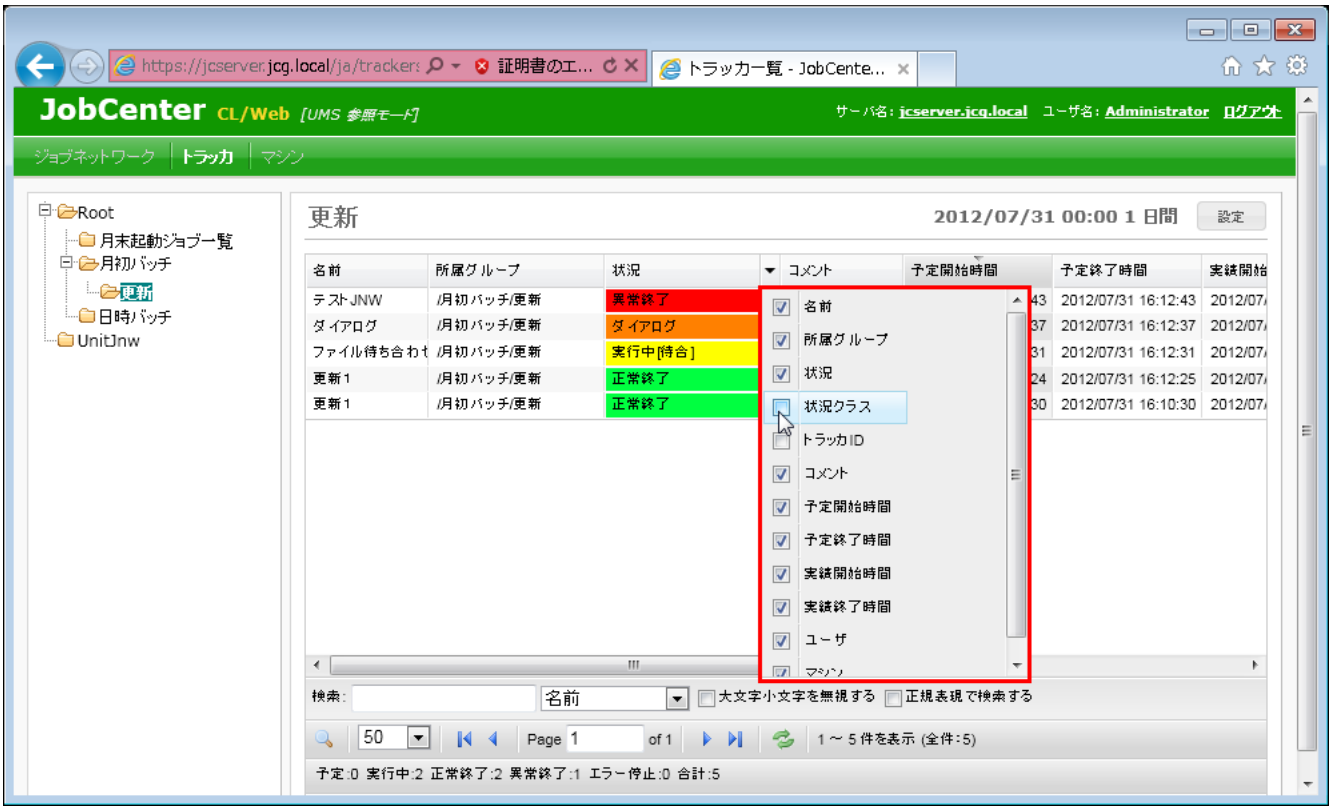

図5.8 表示項目一覧画面

チェックが入っていない項目は表示されません。

3. チェックを入れた項目の項目タブが表示されます。

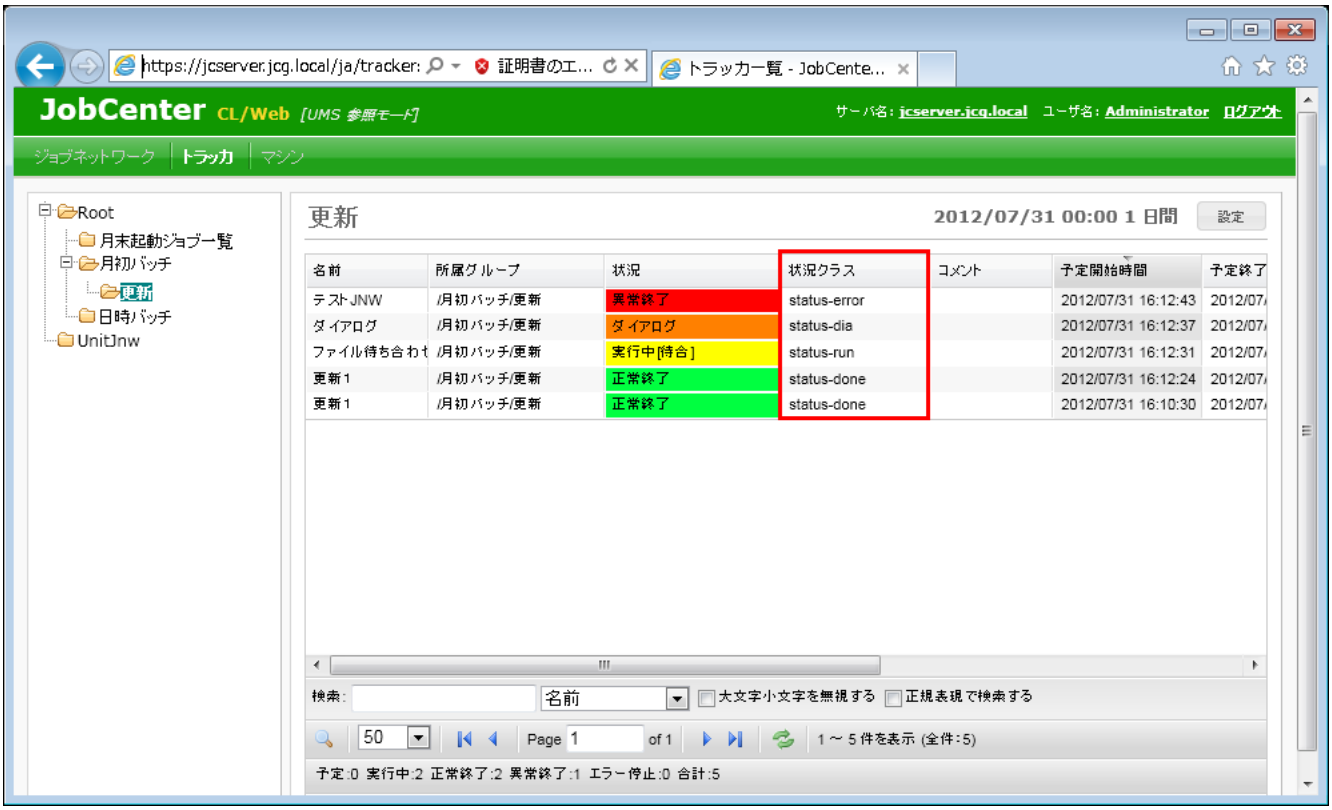

図5.9 表示項目一覧結果画面

項目タブの種類は、表示テーブルごとに異なります。

5.2. ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする

ブラウザによるCL/Webサーバへのアクセス方法を次に説明します。

1. [スタート]メニューのプログラムから[Internet Explorer]を起動します。
2. [Internet　Explorer]のアドレスバーに次のURLを入力するとCL/Webのログイン画面が表示されます。

```
https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/
```

SSLのポート番号をデフォルト値の443以外にしている場合(SSLを無効にしている時はポート番号を80以外にしている場合)は、CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレスの後に、コロン(:)に続けて、設定したポート番号を指定してください。

CL/Webは自己署名証明書を使用しているため、上記のURLにアクセスする際に証明書のエラー画面が表示される場合があります。その場合は、エラー画面でWebサイトの閲覧を続行することでCL/Webのログイン画面が表示されます。

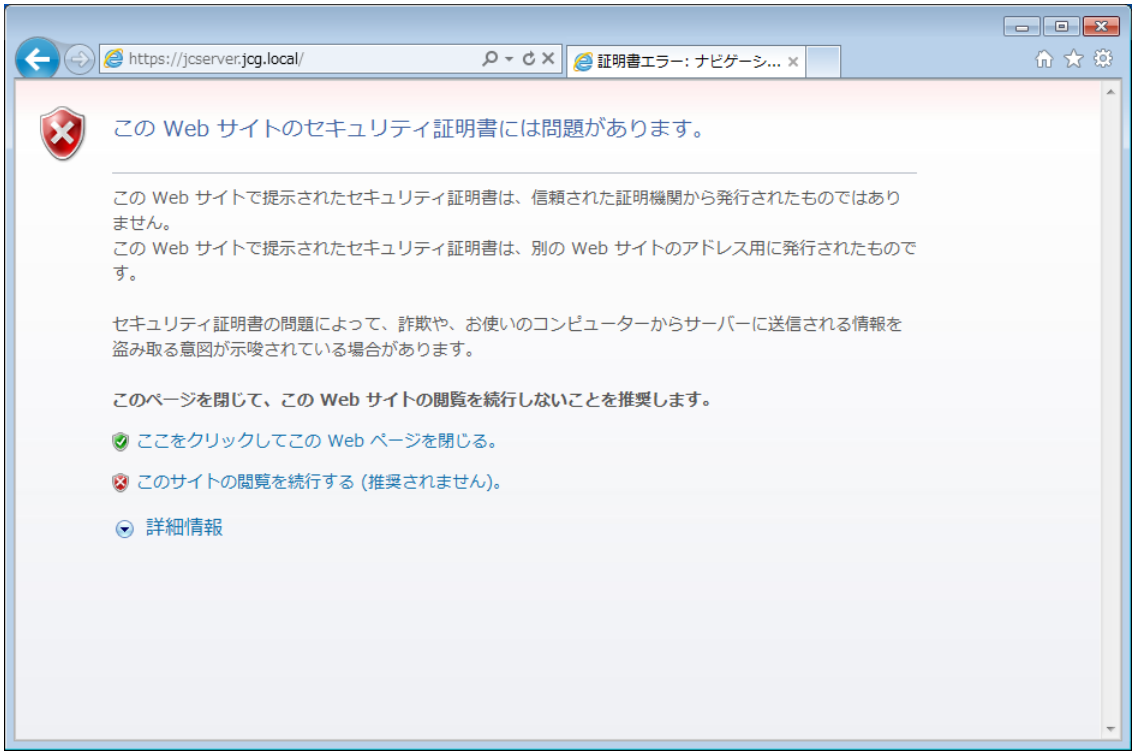

図5.10 証明書のエラー画面

5.3. ログイン・ログアウト

OSアカウントを使用して、サーバへ接続を行います。

■サーバ接続の前に、JobCenter MG/SVの起動が必要です。

5.3.1. ログインする

1. ブラウザにURL(https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/)を指定し起動すると、CL/Webの[ログイン]画面が表示されます。

■CL/Webの表示言語は、ブラウザの言語設定により変わります。対応言語は日本語(jaからはじまる)、英語(enからはじまる)、中国語(簡体字)(zhからはじまる)です。言語を変更したい場合は、ブラウザの言語設定をCL/Webの対応言語に変更してください。

■一時的に表示言語を変更したい場合は、ログイン画面の右上の言語名をクリックして変更できます。ただし、一時的に変更したものは一旦ブラウザを終了すると、表示言語はブラウザ設定の言語に戻ります。

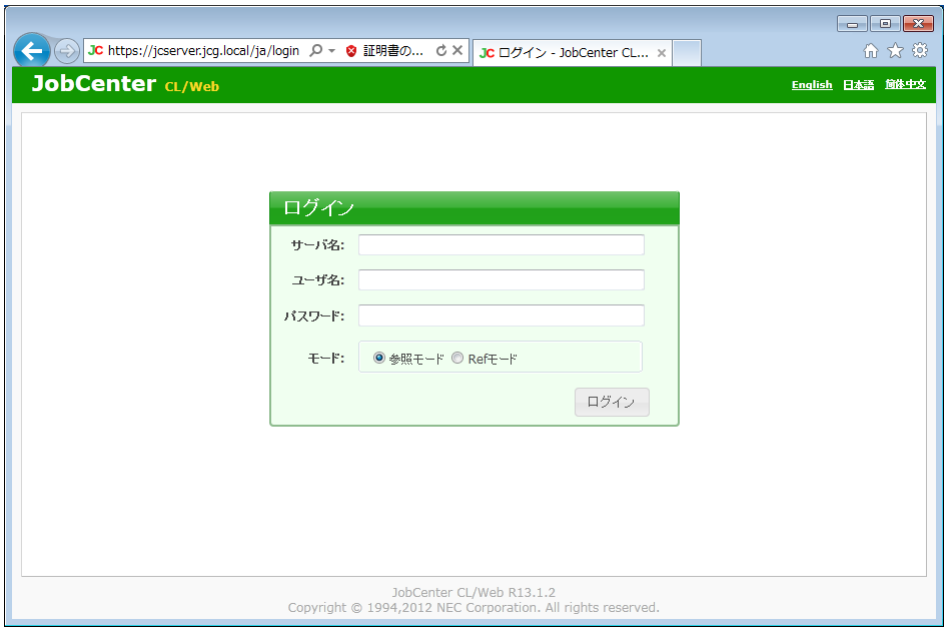

図5.11 CL/Webログイン画面イメージ

2. [サーバ名]、[ユーザ名]、[パスワード]、[モード] を入力します。

■[サーバ名] はJobCenter MG/SVのマシン名を入力します。ドメインを利用している環境では、ドメインを含めたマシン名を入力します。

■[ユーザ名] はJobCenter MG/SVにログインするユーザ名を入力します。

■[パスワード] は上記ユーザアカウントのパスワードを入力します。

■[モード] は参照モードもしくはRefモードのどちらかを選択します。

3. すべての入力と選択が終わりましたら、 [ログイン]ボタンをクリックします。

4. ログインに成功すると、ジョブネットワーク一覧の画面が表示されます。

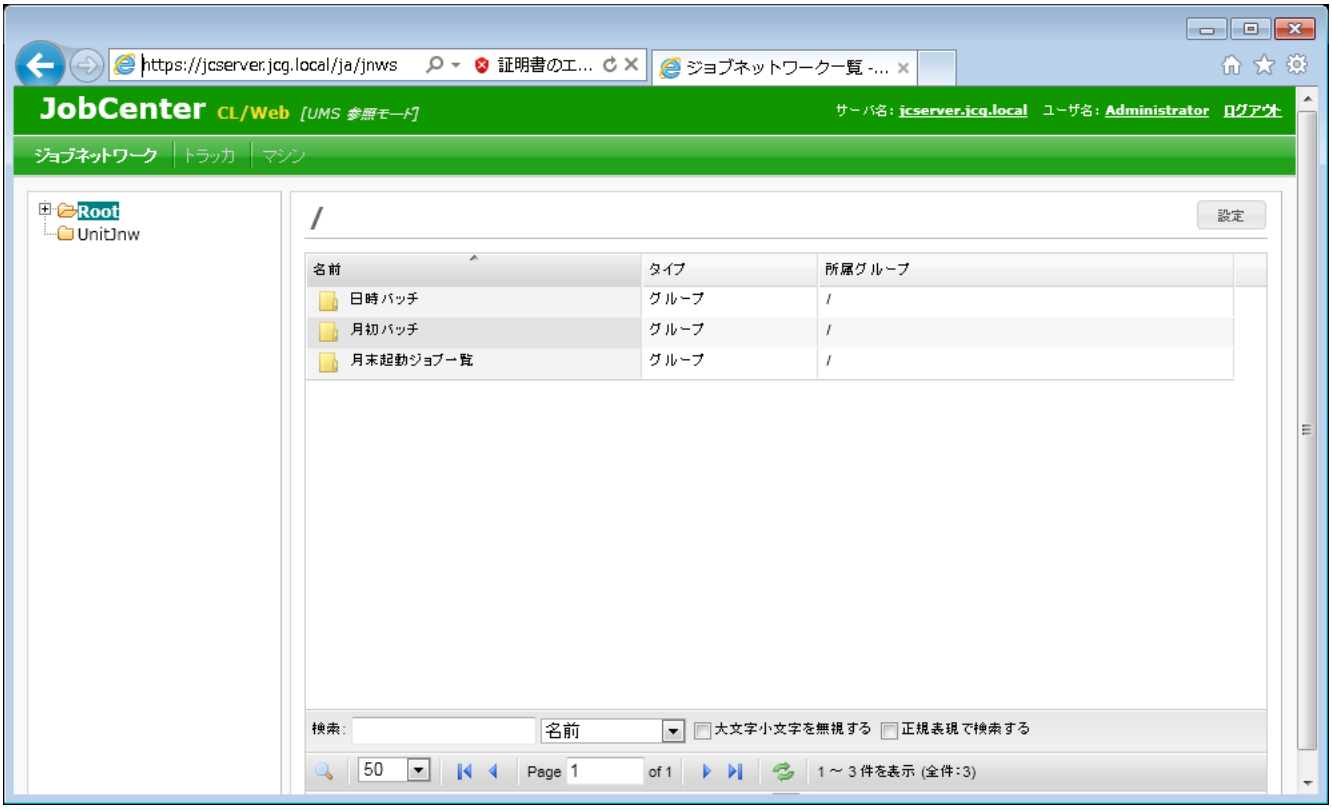

図5.12 CL/Webログイン後の画面

5.3.2. ログアウトする

1. タイトルバーの[ログアウト]をクリックします。

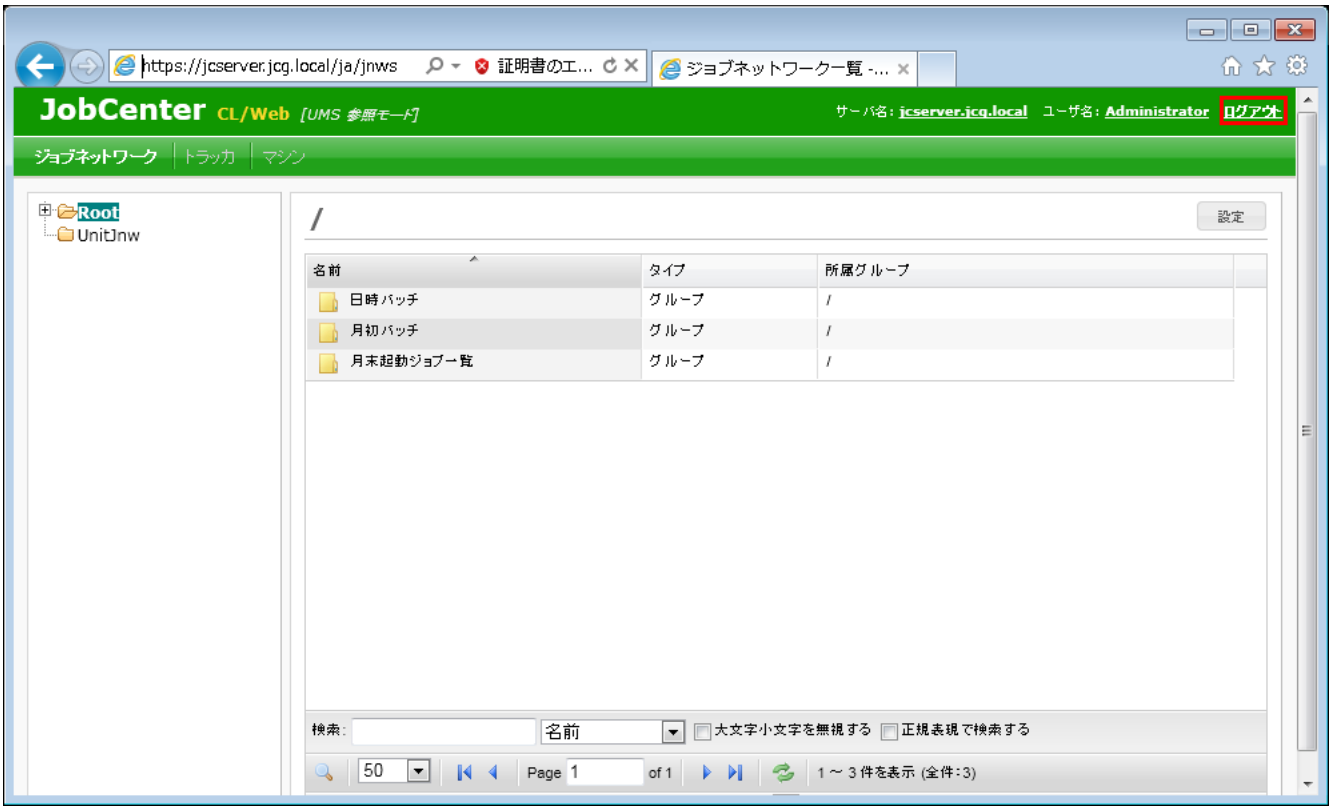

図5.13 JobCenter CL/Webログアウト画面イメージ

2. CL/Webの[ログイン]画面が表示されるとログアウト完了です。

3. CL/Webの[ログイン]画面を終了するには、ブラウザを閉じてください。

ログイン中にブラウザのアドレスバーに直接[ログイン]画面のURLを入力して[ログイン]画面を表示した場合も、ログアウトとなります。

5.4. ジョブネットワークに関する操作

5.4.1. グループを参照する

1. ツリービューよりツリーを開き、グループ名にカーソルを合わせクリックします。

2. グループ配下にジョブネットワーク、ショートカット、グループがある場合、表示テーブルにそれらのオブジェクトが表示されます。

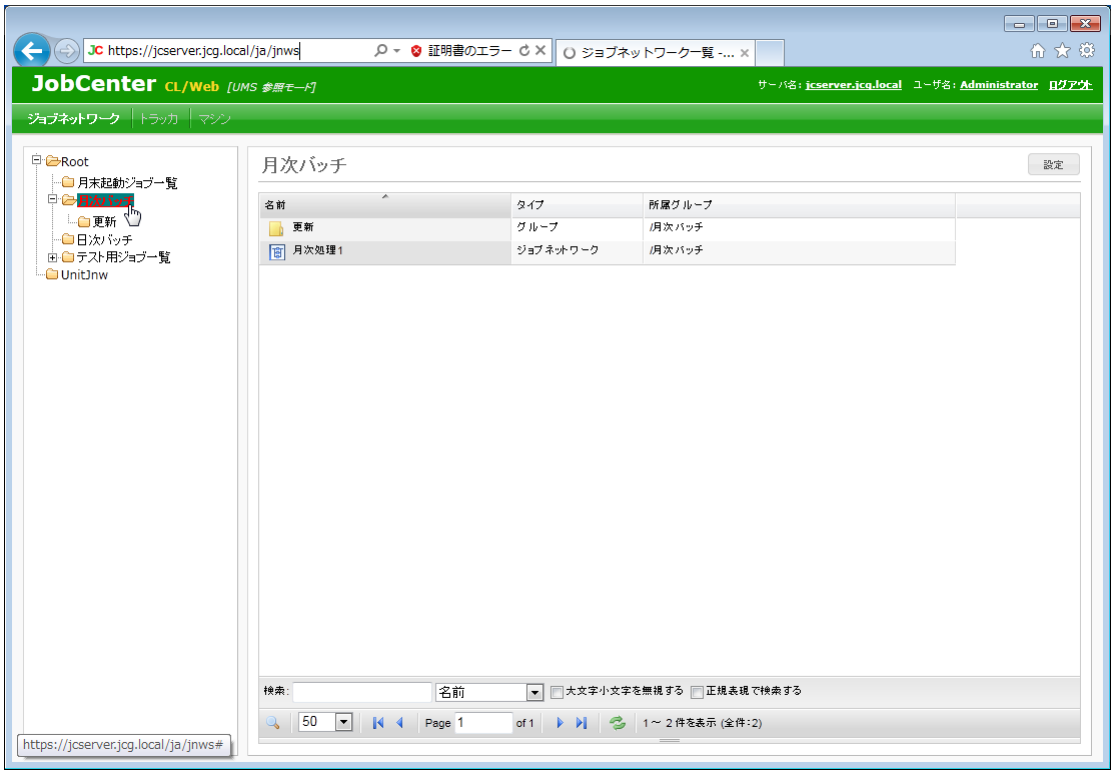

図5.14 グループ選択画面イメージ

■表示テーブル一覧項目

項目名	説明	補足
名前	オブジェクトの名前が表示されます。	
タイプ	オブジェクトの種類(ジョブネットワーク、グループ、ショートカット)が表示されます。	
所属グループ	オブジェクトが所属しているグループ名が表示されます。	

グループ名をクリックして表示テーブルの読み込みが完了する前に、さらに他のグループ名をクリックすると、新しくクリックしたグループではなく最初にクリックしたグループの内容が表示されることがあります。ツリービューからグループ名をクリックするときは、表示テーブルの読み込みが完了してから行ってください。

5.4.2. ジョブネットワークを参照する

1. 表示テーブルのジョブネットワーク名にカーソルを合わせクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの[開く]を選択します。

2. 選択したジョブネットワークのページが表示されます。

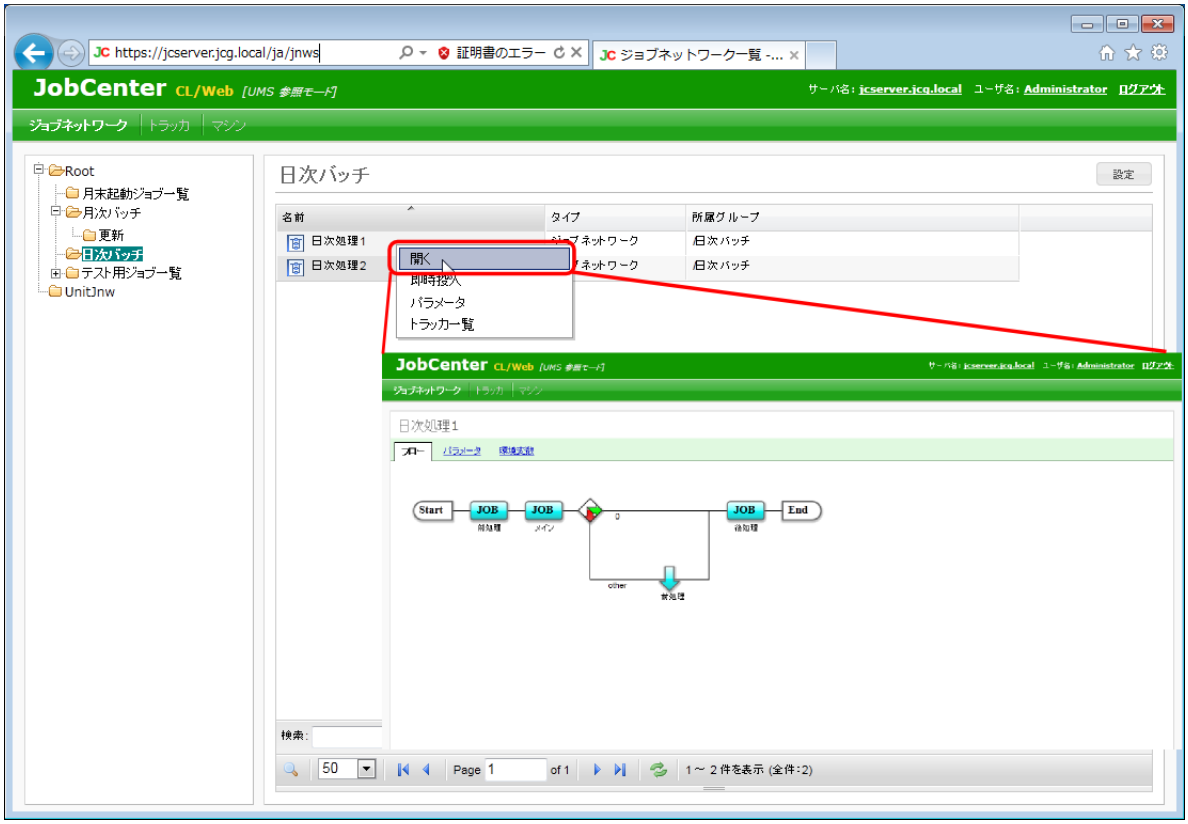

図5.15 ジョブネットワークの表示

5.4.3. ジョブネットワークを即時投入する

ジョブネットワークの即時投入の方法は、表示テーブルから実行する場合とジョブネットワークフロー画面から実行する場合の2通りがあります。

2通りの即時投入方法を次に説明します。

ログインモードで「Refモード」を選択している場合や、CL/Winでのユーザのパーミッション設定でユーザ自身のジョブネットワークの実行を許可していない場合は、即時投入を行うことはできません。

5.4.3.1. ジョブネットワーク表示テーブルから即時投入する

スケジュールとは無関係にジョブネットワークを投入、実行します。

1. 表示テーブルで、実行するジョブネットワーク名にカーソルを合わせて右クリックします。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューの[即時投入]を選択します。

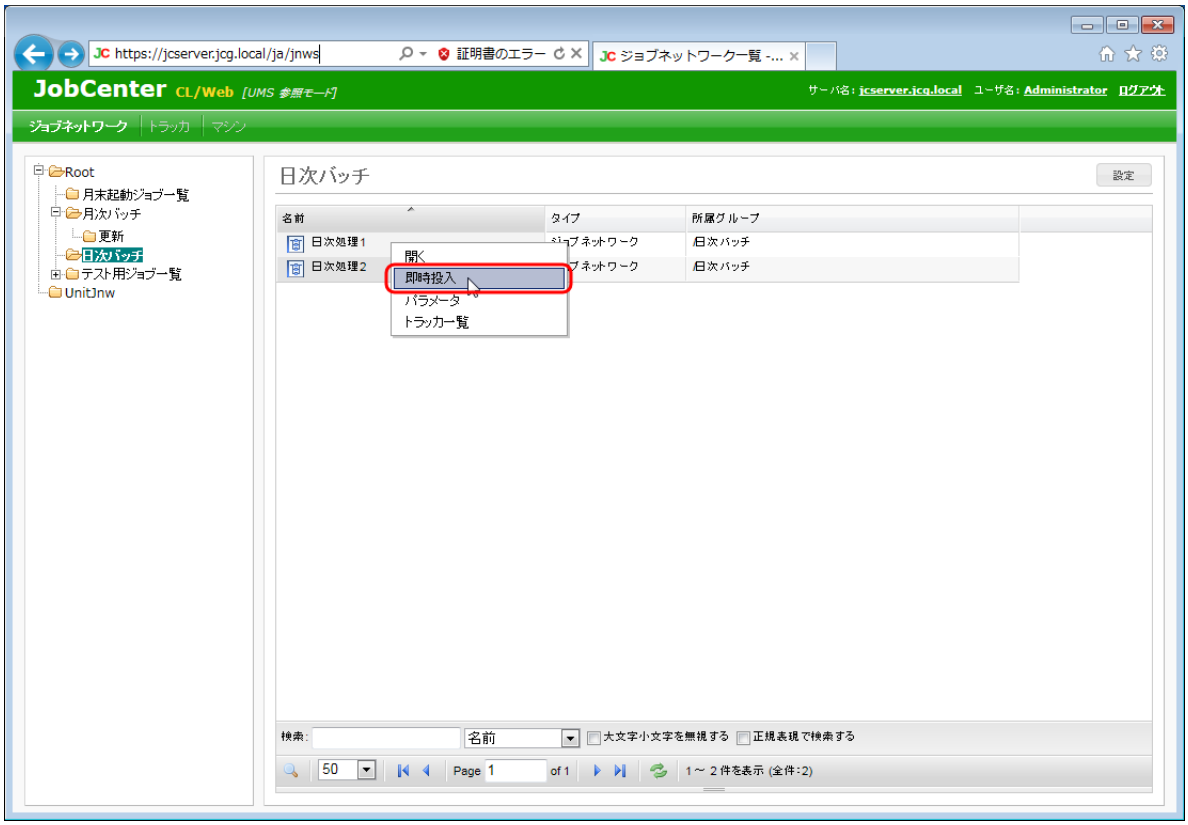

図5.16 ジョブネットワーク表示テーブルでの[即時投入]の選択画面

3. [即時投入]のダイアログが表示されます。

4. [OK]ボタンをクリックします。

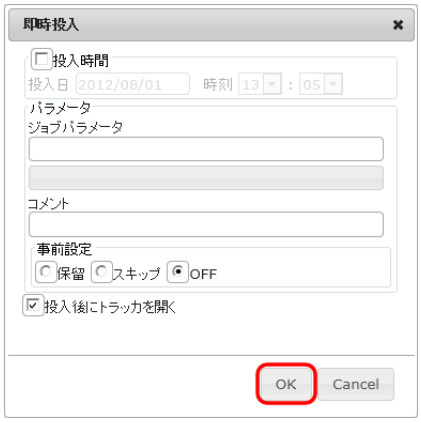

図5.17 [即時投入]のダイアログ

5. [JNWの制御]のダイアログが表示されます。

6. [OK]ボタンをクリックします。

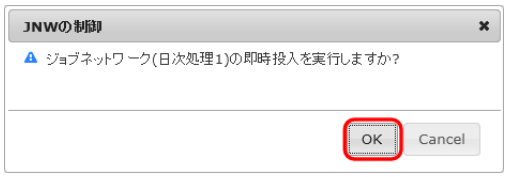

図5.18 [JNWの制御]のダイアログ

7. [JNWの制御]のダイアログで次のメッセージが出力されれば終了です。
8. [OK]ボタンをクリックします。

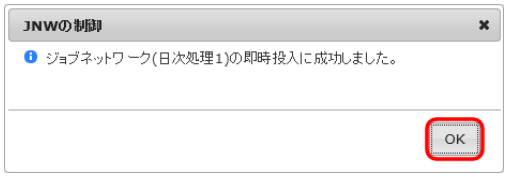

図5.19 即時投入成功

5.4.3.2. ジョブネットワークフロー画面から即時投入する

スケジュールとは無関係にジョブネットワークを投入、実行します。

1. 実行するジョブネットワーク名にカーソルを合わせてクリックします。ジョブネットワークフロー画面が表示されます。
2. ジョブネットワークフロー画面のフロー表示領域にカーソルを合わせて右クリックします。
3. 右クリックしたときのポップアップメニューの[即時投入]を選択します。

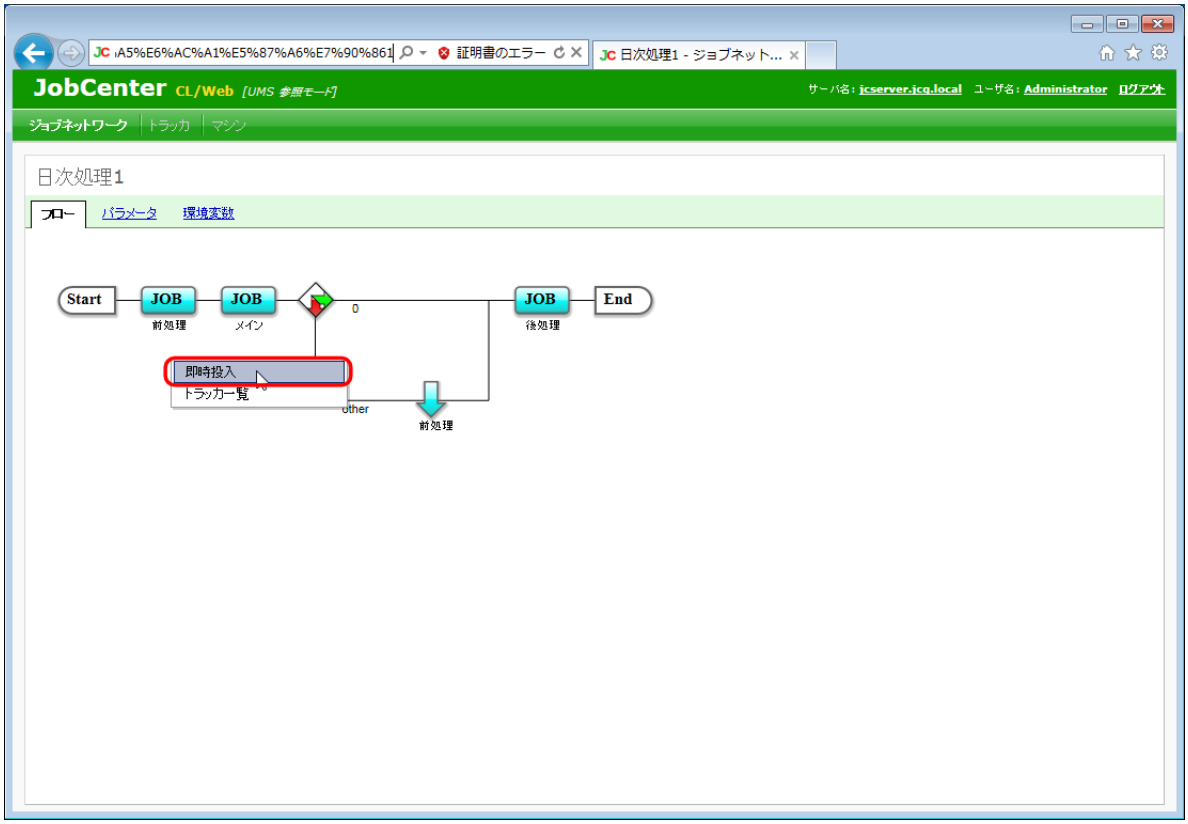

図5.20 ジョブネットワーク表示画面での[即時投入]の選択画面

これ以降の操作は「5.4.3.1　ジョブネットワーク表示テーブルから即時投入する」の手順4以降と同じです。

5.4.3.3. 即時投入の設定

［即時投入］ダイアログの即時投入に関する設定は次のとおりです。

■投入時間

ジョブネットワークの投入時間を設定します。チェックボックスをチェックしない場合は、即時に投入して実行します。

チェックボックスをチェックすると、投入時間を指定して実行できます。

■ジョブパラメータ

ジョブネットワークの各単位ジョブのスクリプトに引き渡すパラメータを設定します。ここで指定した文字列が各単位ジョブの環境変数「NSJNW_PARAM」に設定され、各単位ジョブのスクリプトに引き渡されます。

ジョブネットワークのパラメータで［ジョブパラメータ］の既定値と説明が設定されていた場合は、その内容を初期値として表示します。なお初期値として表示された値をクリア後、空白のまま投入した場合でも［ジョブパラメータ］の既定値が有効となります。

テキスト入力域に、128文字以内で入力できます。

即時投入のジョブパラメータの詳細については、<基本操作ガイド>の「3.2.1　即時投入する」の「ジョブパラメータ」を参照してください。

■コメント

即時投入時にコメントを指定できます。すでにコメントが設定してある場合は、即時投入したトラッカのみコメントが変更されます。

テキスト入力域に日本語、英数字、カナ文字（全角・半角）（混在可能）、128文字以内で入力できます。

■事前設定

ジョブネットワークをあらかじめ保留またはスキップ状態にすることができます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態およびスキップ状態にしません。

■投入後にトラッカを開く

このボックスをチェックすると、即時投入後にジョブネットワークトラッカの画面が開くように設定されます。

即時投入の実行時の注意事項

- 投入先のキューは、ジョブネットワークパラメータや単位ジョブパラメータに投入先キューが指定されていない場合、JobCenter　CL/Winの[ユーザ環境設定]－

[基本]−「ジョブネットワーク既定値」の「投入キュー」の設定が自動的に使用されます。デフォルトキューが設定されている場合、実際にジョブリクエストが実行されるguibs_1バッチキューの同時実行数の既定値は1なので注意してください。

5.5. トラッカに関する操作

ジョブネットワークの即時投入や自動実行の登録が行われると、そのジョブネットワークの実行状態がトラッカと呼ばれる一覧、およびウィンドウから変更、監視や結果参照をすることができます。

トラッカは、その回に実行されたジョブネットワークのプロセスや結果を表示します。

ジョブの状態は色やラベルで区別されるため、障害発生も即座に認識することができます。また、ジョブの状態を表す色はジョブネットワークトラッカのアイコン、トラッカ一覧のテキストモードおよびグラフィックモードにおいて共通になっておりますので、ジョブの状態を判別しやすくなっています。

ジョブの状態を表す色は、CL/Winの[システム環境設定]の[色の設定]で規定値としてセーブしたものが使用されます。色の設定方法の詳細は<環境構築ガイド>の「6.6 色の設定を変更する」を参照してください。

5.5.1. トラッカを参照する

トラッカの一覧表示、表示期間の設定などを行います。

5.5.1.1. トラッカ一覧を表示する

1. ナビゲーションバーの[トラッカ]を選択します。
2. ツリービューを展開し、閲覧したいグループ名をクリックします。

   グループ名を選択すると、表示テーブルにトラッカが表示されます。

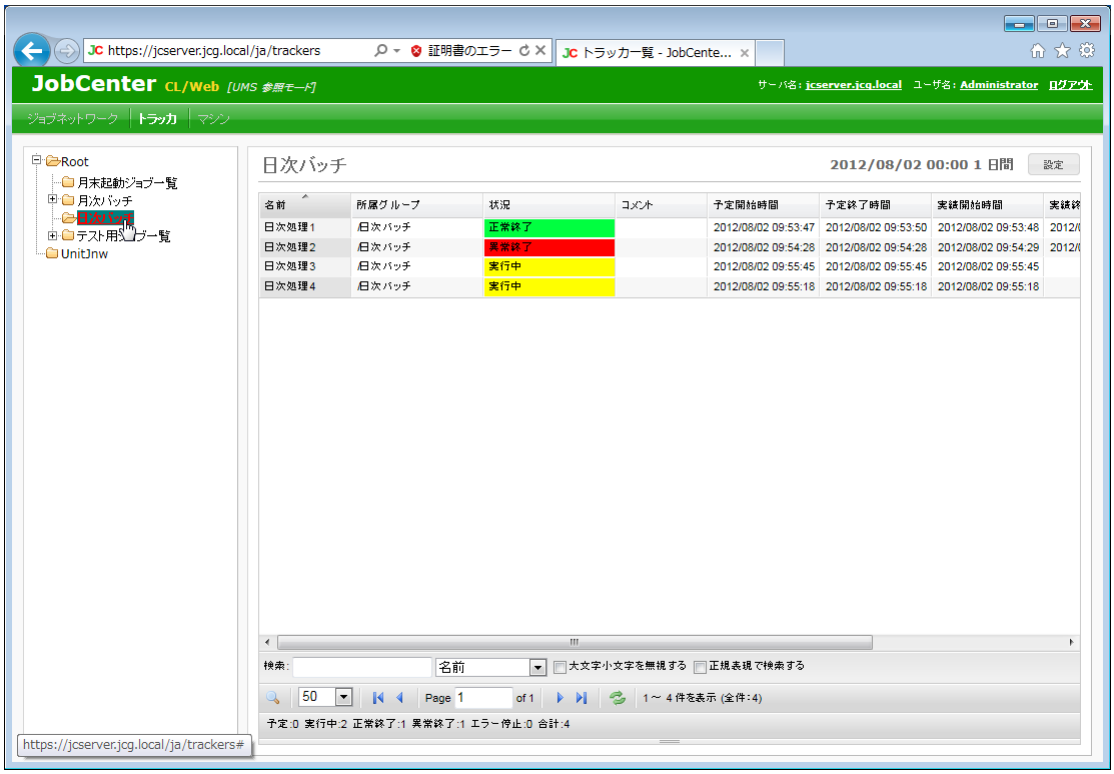

図5.21 トラッカ表示テーブルでのトラッカ表示画面

■トラッカー覧項目

項目名	説明	補足
名前	ジョブネットワーク名が表示されます。	
所属グループ	所属しているグループ名が表示されます。	
状況	ジョブネットワークの実行状況が表示されます。	
状況クラス	英語表記のステータスが表示されます。	非デフォルト項目[注1]
トラッカID	トラッカIDが表示されます。	非デフォルト項目[注1]
コメント	ジョブネットワークに設定されたコメントを表示します。	
予定開始時間	スケジュールに登録された開始予定時刻が表示されます。	
予定終了時間	ジョブネットワークや単位ジョブのパラメータウィンドウで設定された情報を元に計算した終了予定時刻が表示されます。	
実績開始時間	ジョブネットワークを実際に開始した時間が表示されます。	
実績終了時間	ジョブネットワークを実際に終了した時間が表示されます。	
ユーザ	ジョブネットワークを実行したユーザが表示されます。	
マシン	ジョブネットワークを実行したマシン名が表示されます。	

注1　非デフォルト項目を[Hide/Show　Columns]機能により追加することが可能です。詳細については「5.1.4　表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

グループ名をクリックして表示テーブルの読み込みが完了する前に、さらに他のグループ名をクリックすると、新しくクリックしたグループではなく最初にクリックしたグループの内容が表示されることがあります。ツリービューからグループ名をクリックするときは、表示テーブルの読み込みが完了してから行ってください。

5.5.1.2. トラッカー覧の表示期間を指定して表示する

1. トラッカを表示した状態で表示テーブル右上の[設定]をクリックします。

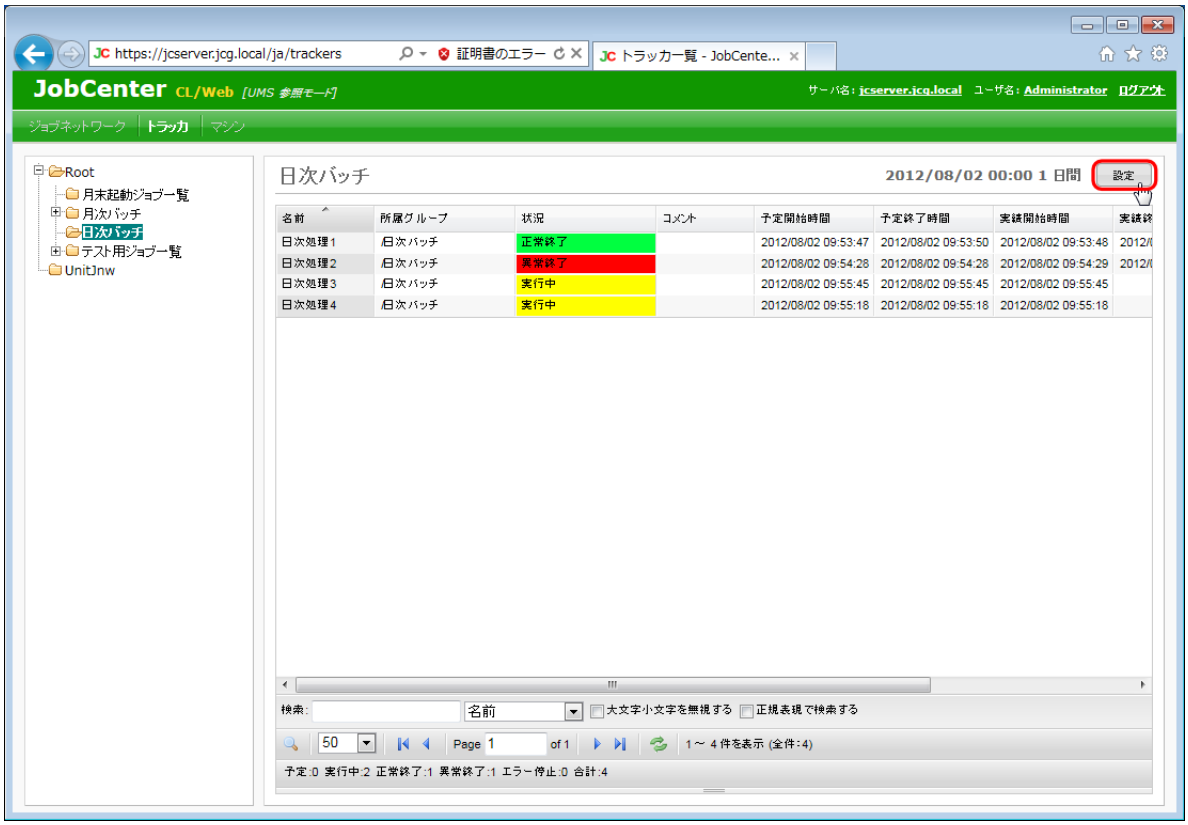

図5.22 設定

2. [設定]のダイアログが表示されます。

3. 期間と表示オプションの設定を行います。

図5.23 [設定]のダイアログ

[表示設定]の設定項目は次の通りです。

表示設定

■表示開始日

トラッカー一覧を表示する期間の開始の日時［年月日時分］を指定します。

■表示期間

トラッカ一覧を表示する期間の開始の日時［年月日時分］を指定します。

期間の数値と単位を設定します。1～59分、1～23時間、1～7日間、1～5週間、1～3ヶ月を設定できます。

表示開始日の←→ボタンで表示開始日を表示期間の単位で前後できます。

■フィルタ

プルダウンメニューの項目単位でフィルタリングを設定します。

なし、警告・異常のトラッカ、エラー停止のトラッカ、実行中のトラッカ、応答待ちのトラッカ、予定トラッカ、ユーザ定義フィルタ1～3を設定できます。

■ユーザ定義フィルタを設定する

トラッカの表示対象や予定、実行中、終了などの表示条件をフィルタリングを設定します。

1. プルダウンメニューリストを[ユーザ定義フィルタ]に設定するとプルダウンメニューリストの右側に[詳細]ボタンが表示されるのでクリックします。

図5.24 詳細ボタン

2. [フィルタの編集]ダイアログが表示されます。

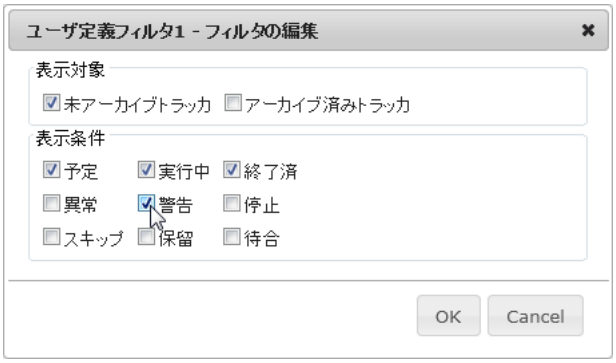

図5.25 [フィルタの編集]ダイアログ

3. 表示対象と表示条件の設定を行います。

4. 設定後、[OK]ボタンをクリックします。

5. [設定]のダイアログの[Apply]をクリックします。

6. 設定の内容がトラッカ表示テーブルに反映されます。

ユーザ定義フィルタの設定内容はブラウザのCookieに保存されます。

5.5.1.3. 部品を表示する

1. 表示テーブルのジョブネットワーク名をクリックするとトラッカのジョブネットワークフローが表示されます。

   デフォルトで[フロー]タブが選択されています。

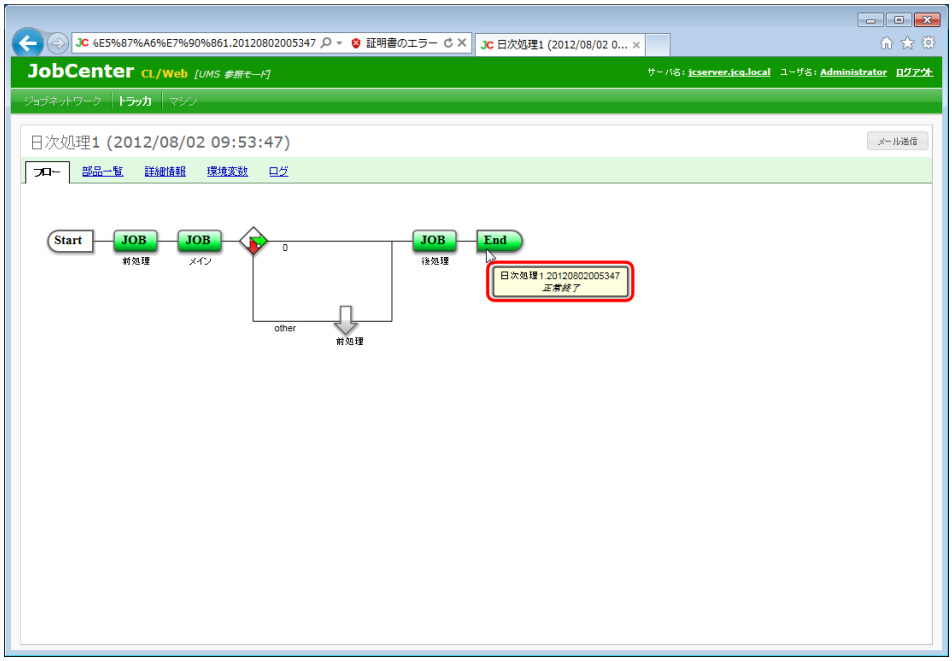

図5.26 ジョブフロー表示画面

[Start]または[End]アイコンにカーソルを合わせると図5.26「ジョブフロー表示画面」のように[トラッカIDとトラッカの状態]が表示されます。また部品アイコンにカーソルを合わせると[部品名と部品の状態]が表示されます。

2. フロー内の部品をクリックするとその部品の詳細情報が表示されます。

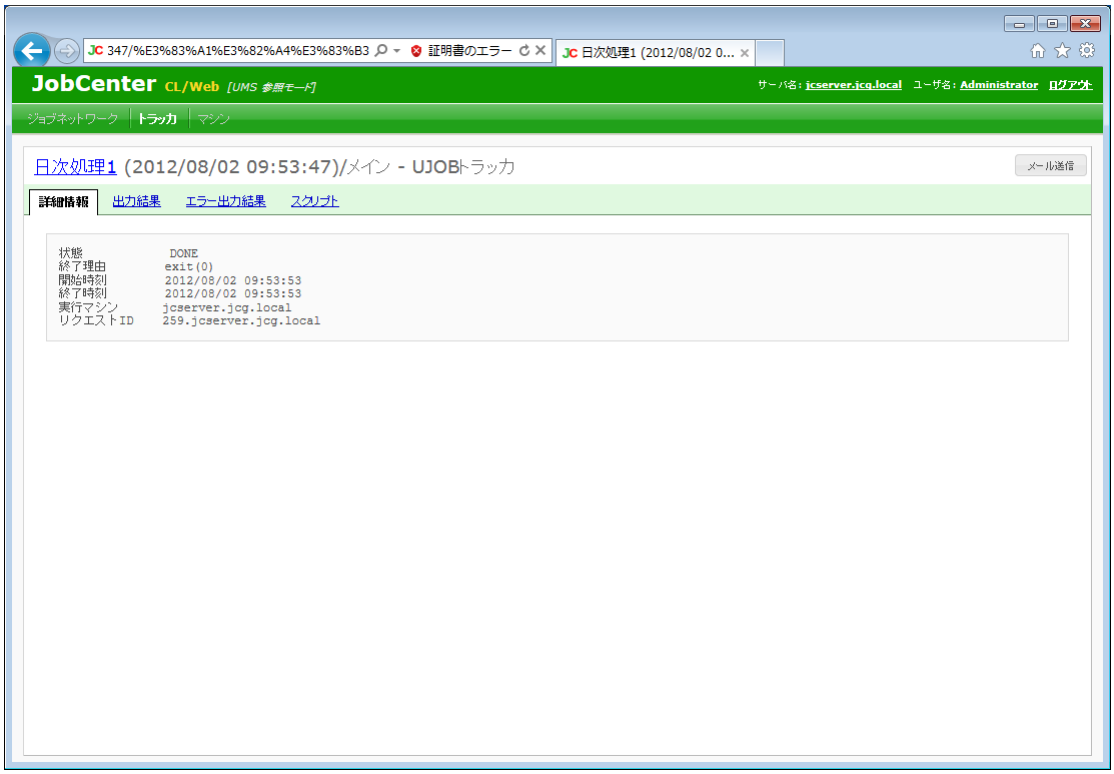

図5.27 部品の詳細画面

部品が単位ジョブ、カスタムジョブの場合は[詳細情報]タブに加え[出力結果]タブ、[エラー出力結果]タブ、[スクリプト]タブが選択できます。また、ERPジョブ、BIジョブ、PCジョブ、UCXSジョブ、WOBSジョブについては、それぞれ特有の情報を表示するタブが選択できます。

3. [部品一覧]タブを選択すると部品の一覧が表示されます。

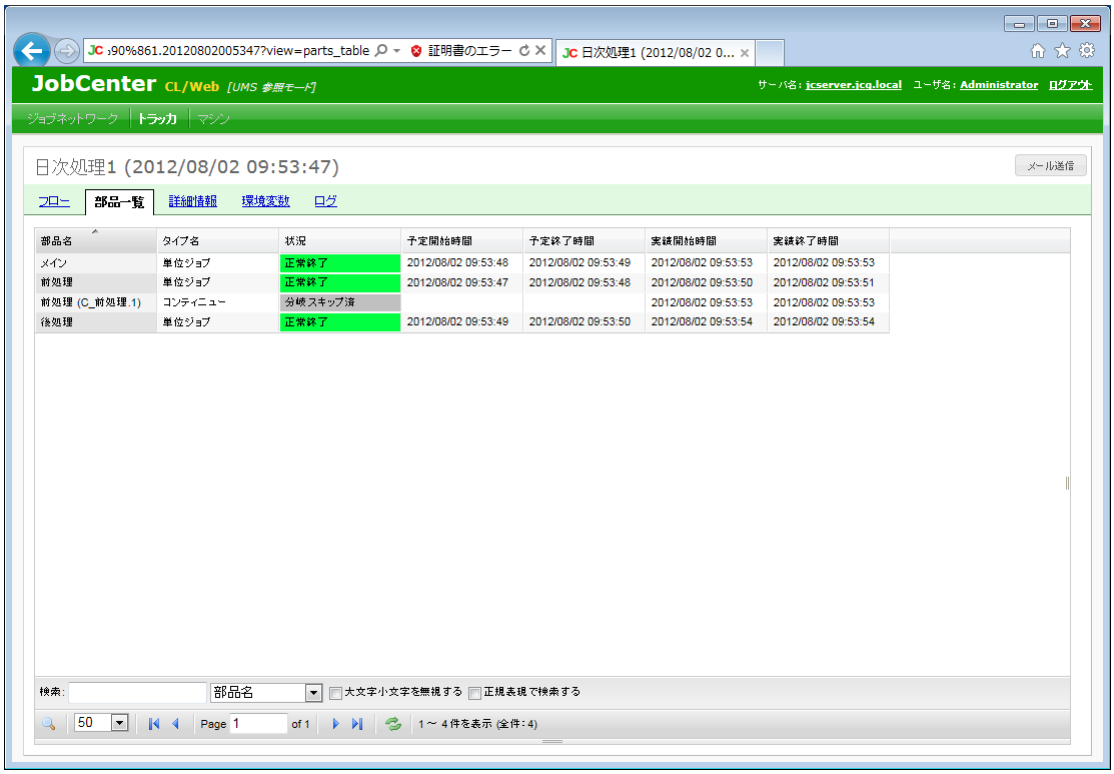

図5.28 部品の詳細画面

部品名を選択すると上記で説明したフロー内の部品名をクリックした内容と同様のものが表示されます。

■部品一覧項目

項目名	説明	補足
部品名	部品名が表示されます。	
タイプ	部品の種類が表示されます。	非デフォルト項目[注1]
タイプ名	部品のタイプ名が表示されます。	
状況	「5.5.1.1　トラッカ一覧を表示する」を参照してください。	
状況クラス		非デフォルト項目[注1]
予定開始時間		
予定終了時間		
実績開始時間		
実績終了時間		

注1　デフォルトの項目以外を追加する場合は[Hide/Show Columns]を利用してください。詳細については「5.1.4　表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

5.5.2. トラッカを操作する

ジョブネットワークトラッカを利用して、ジョブの実行の監視や制御を行うだけでなく、トラッカの強制実行やスケジュール投入時間の変更などが行えます。

ログインモードで「Refモード」を選択している場合や、CL/Winでのユーザのパーミッション設定でユーザ自身のトラッカの操作を許可していない場合は、トラッカの操作を行うことはできません。

5.5.2.1. ジョブネットワークトラッカを操作する

1. トラッカ表示画面のツリービューを開き、操作したいジョブネットワークのグループ名を選択してクリックする

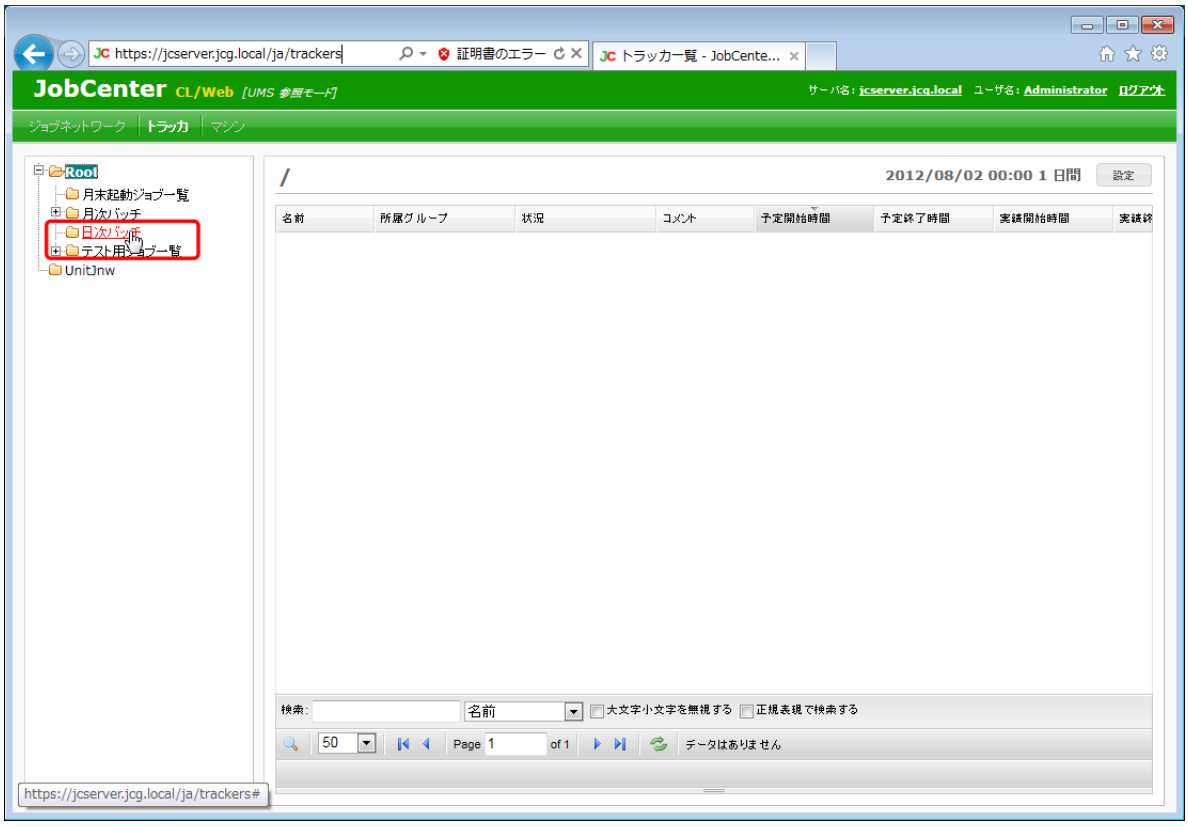

図5.29 グループ名選択画面

2. 操作したいジョブネットワークトラッカ名を選択し、右クリックする。

3. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

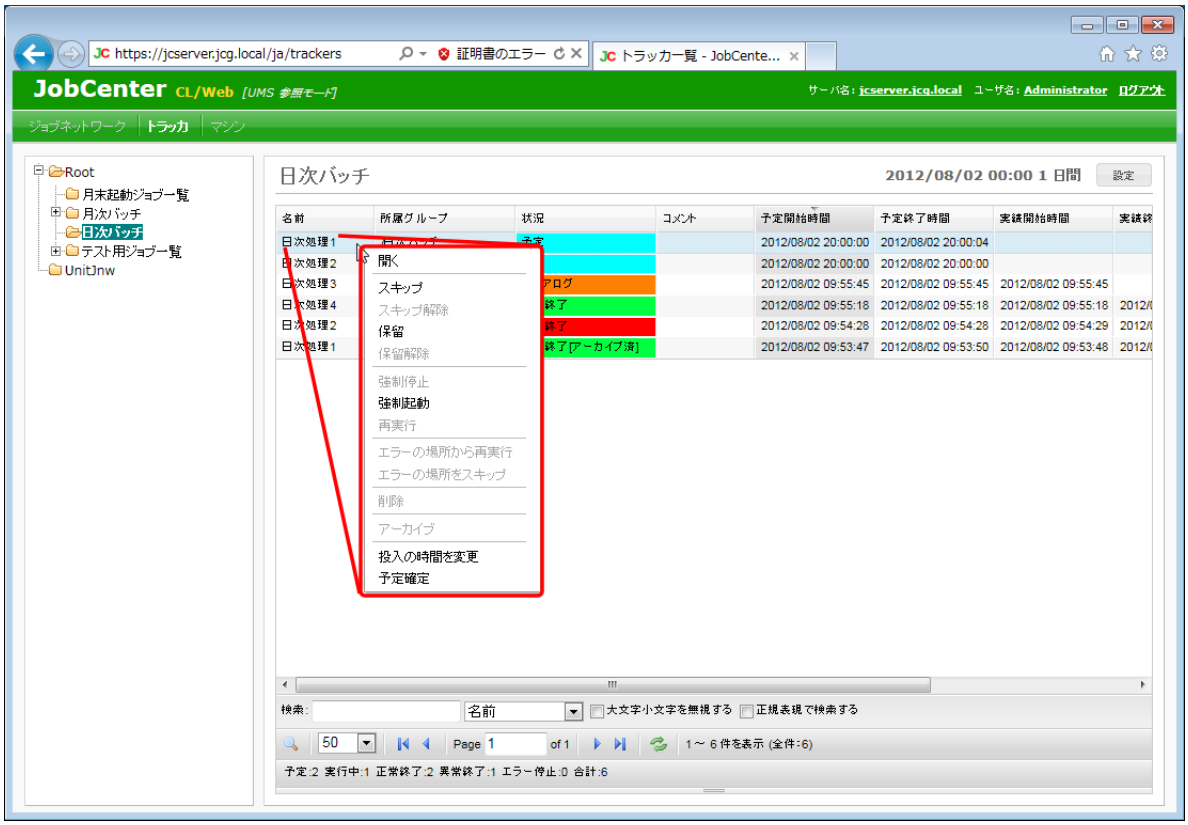

図5.30 ポップアップメニュー表示画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次のとおりです。

■開く

そのジョブネットワークトラッカを参照します。

■スキップ

ジョブネットワークトラッカに対してスキップの処理が行われます。

■スキップ解除

「スキップ」メニューによって設定されたスキップ予定を解除します。

■保留

ジョブネットワークトラッカに対して保留の処理が行われます。

■保留解除

「保留」メニューによって設定された保留予定を解除します。

■強制停止

実行中のジョブネットワークを中断します。ジョブネットワーク内のジョブリクエストのプロセスは強制的に終了します。

■強制起動

実行前のジョブネットワークを強制的に起動します。

■再実行

予定及び予定確定状態以外のジョブネットワークトラッカに対して即時実行の処理が行われます。

■エラーの場所から再実行

エラー停止状態のジョブネットワークに対してエラーの場所から再実行が行われます。

■エラーの場所をスキップ

エラー停止状態のジョブネットワークに対してエラーの場所をスキップ処理が行われます。

■削除

ジョブネットワークトラッカを削除します。

■アーカイブ

ジョブネットワークトラッカをアーカイブ化します。アーカイブ化後はトラッカに対して「開く」と「削除」の操作のみを行うことができます。アーカイブについては<基本操作ガイド>の「6.14.12 トラッカを手動でアーカイブする」を参照してください。

■投入時間を変更

予定及び予定確定状態のジョブネットワークトラッカに対して、投入予定実行時間を変更することができます。

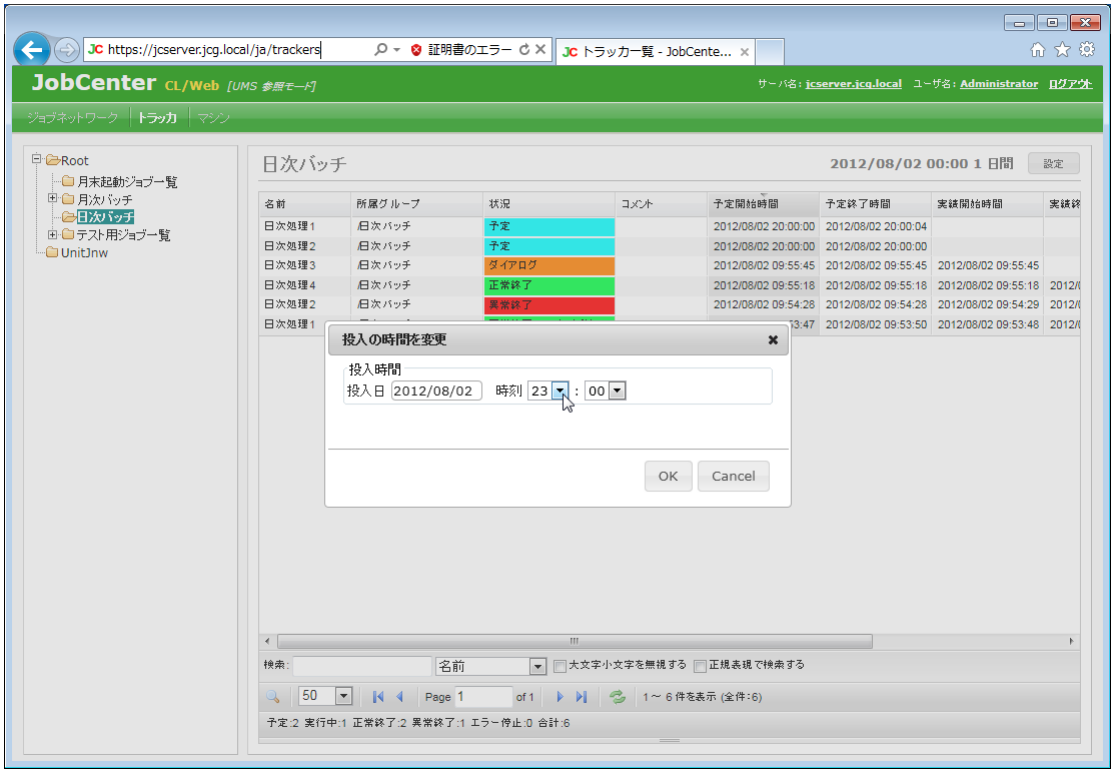

図5.31 投入の時間を変更画面

[投入の時間を変更]ダイアログに次の内容を設定します。

投入日	日付が入力されている部分をクリックするとカレンダーが表示されます。＜＞を選択することで前後1年間までのカレンダを表示できます。

時刻	時刻をプルダウンで選択します。00:00から23:59までを選択できます。

■予定確定

予定状態のジョブネットワークトラッカに対して予定確定状態に変更できます。

ポップアップメニュー内でグレーアウトされている項目は実行できない操作です。

5.5.2.2. 単位ジョブトラッカアイコンを操作する

1. ナビゲーションバーのトラッカを選択し、ジョブネットワーク名をクリックする。
2. 操作したい単位ジョブアイコンにカーソルをあわせて右クリックします。
3. ポップアップメニューに表示される操作を実行できます。

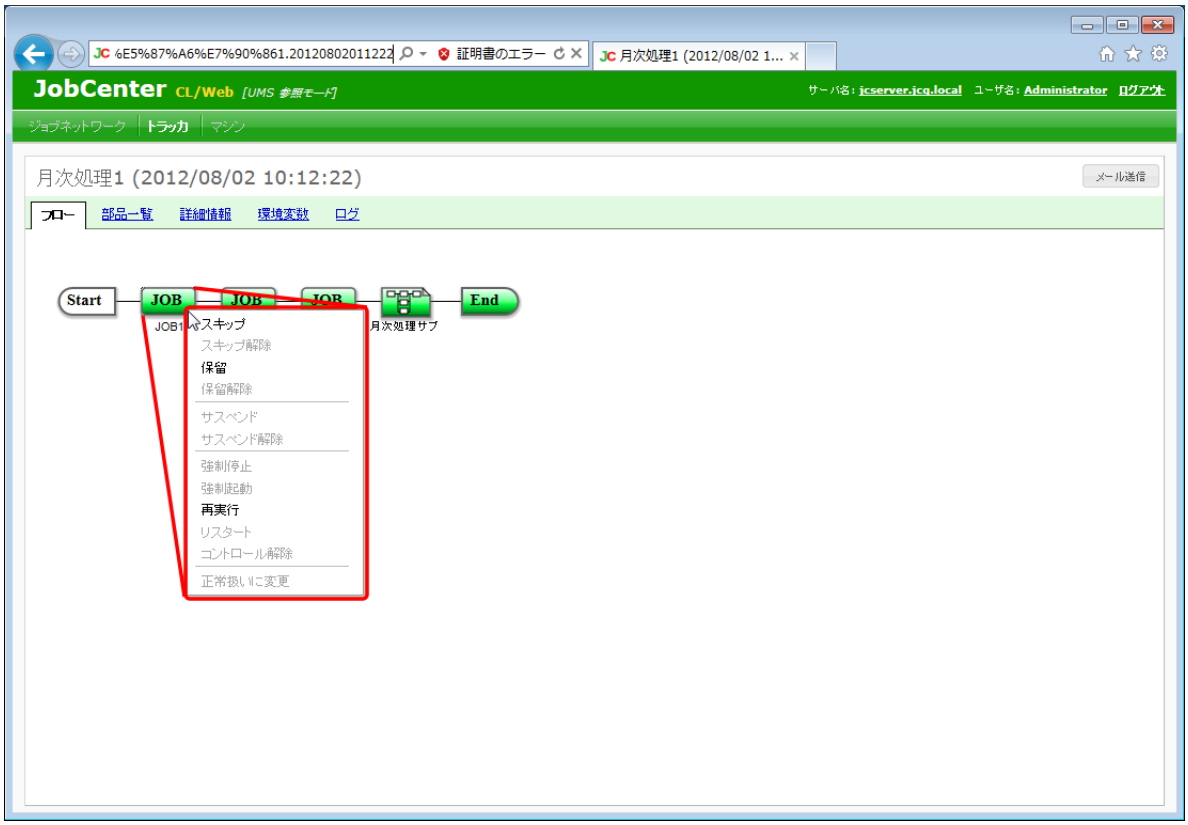

図5.32 単位ジョブトラッカ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「6.15.1 単位ジョブトラッカアイコンの操作」を参照してください。

■スキップ

■スキップ解除

■保留

■保留解除

■サスペンド

■サスペンド解除

■強制停止

■強制起動

■再実行

■リスタート

■コントロール解除

■正常扱いに変更

5.5.2.3. サブジョブネットワークトラッカアイコンを操作する

1. ジョブネットワークトラッカ内のサブジョブネットワークアイコンを選択し、右クリックする。
2. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

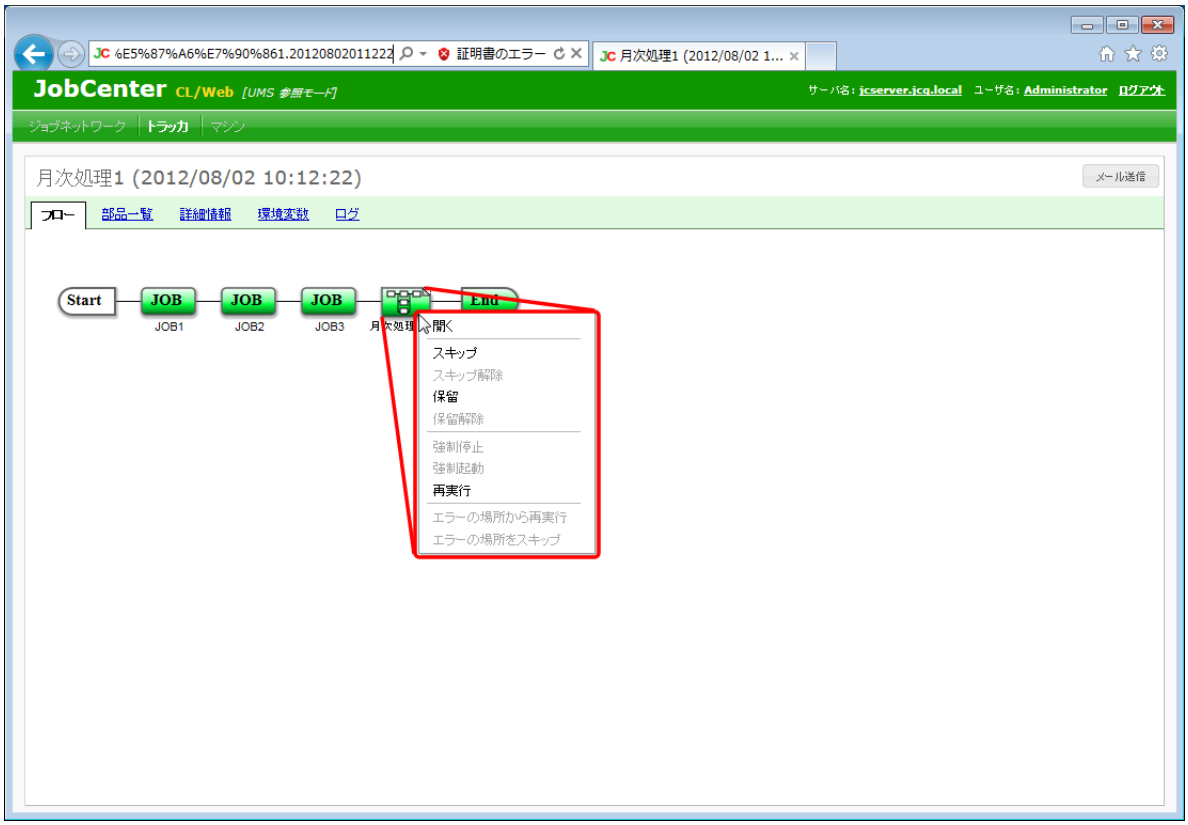

図5.33 サブジョブネットワークトラッカ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「6.16　　サブジョブネットワークトラッカを操作する」を参照してください。

■開く

■スキップ

■スキップ解除

■保留

■保留解除

■強制停止

■強制起動

■再実行

■エラーの場所から再実行

■エラーの場所をスキップ

5.5.2.4. ダイアログトラッカアイコンを操作する

1. ジョブネットワークトラッカ内のダイアログアイコンを選択し、右クリックする。
2. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

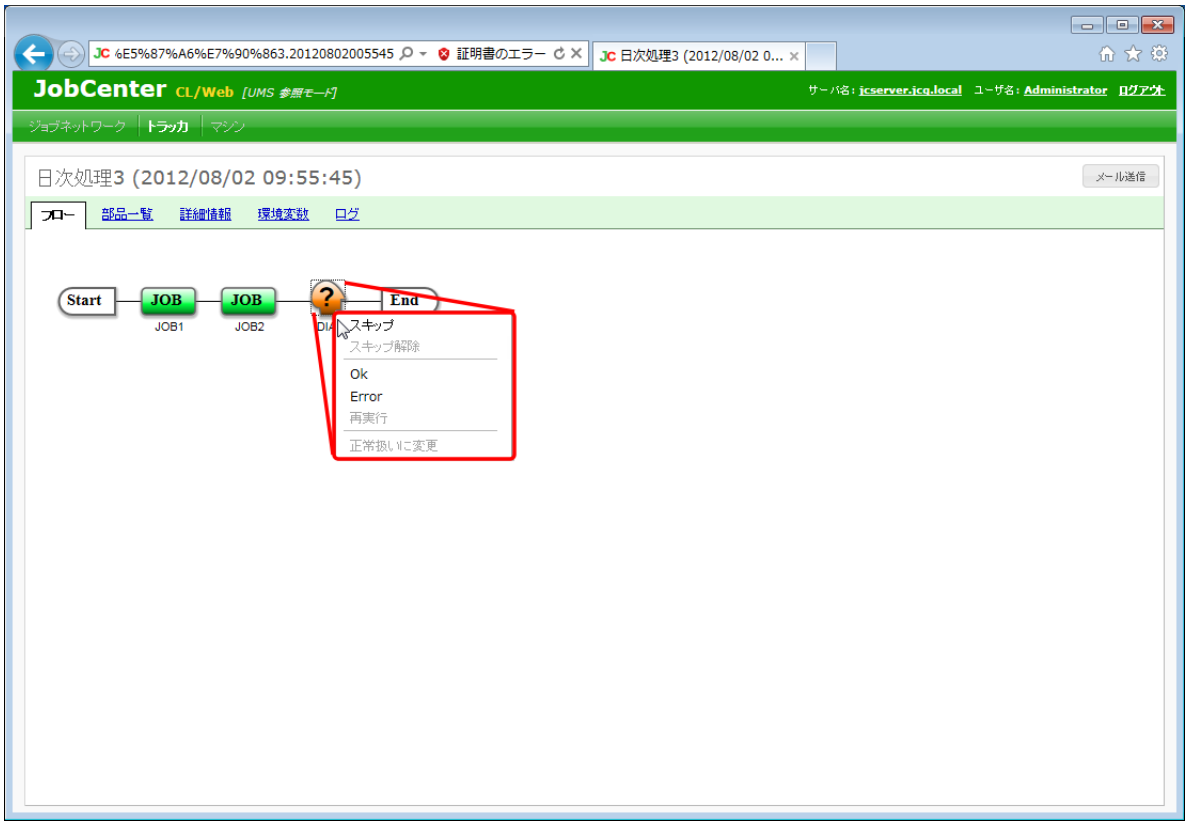

図5.34 ダイアログトラッカ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「6.17　　ダイアログのユーザからの応答を行う（終了ステータスを決定する）」を参照してください。

■スキップ

■スキップ解除

■Ok

■Error

■再実行

■正常扱いに変更

5.5.2.5. 待ち合わせ部品とイベント送受信のアイコンを操作する

1. ジョブ待ち合わせ部品アイコンを選択し、右クリックする。
2. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

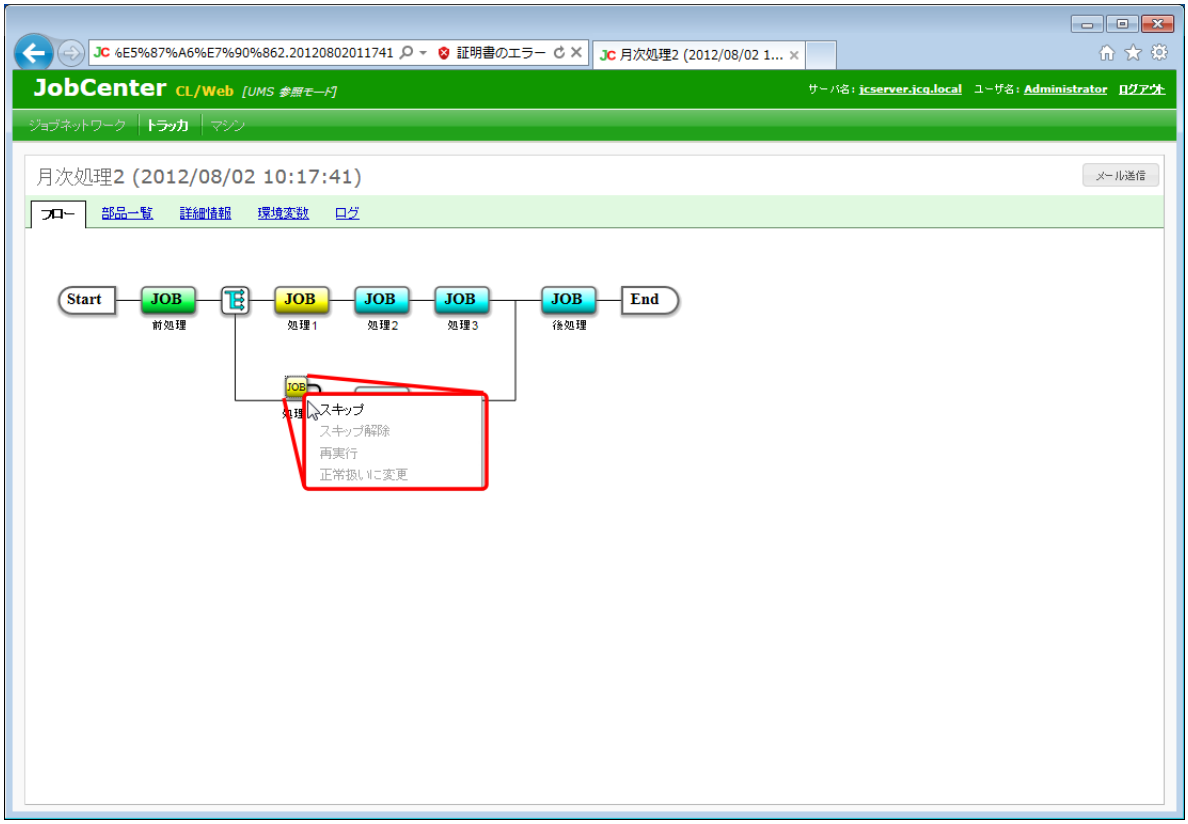

図5.35 ジョブ待ち合わせ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「6.18　待ち合わせ部品とイベントの送受信のジョブをスキップする」を参照してください。

表5.2 待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ可能操作一覧

待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ	ポップアップメニューから可能な操作
ジョブ待ち合わせ	■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
ジョブネットワーク待ち合わせ	■スキップ ■スキップ解除 ■再実行

	■正常扱いに変更
時刻待ち合わせ	■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
ファイル待ち合わせ	■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
イベント送信	■スキップ ■スキップ解除 ■保留 ■保留解除 ■強制停止 ■強制起動 ■再実行 ■正常扱いに変更
イベント受信	■スキップ ■スキップ解除 ■保留 ■保留解除 ■強制停止 ■強制起動 ■再実行 ■正常扱いに変更

5.6. マシンに関する操作

JobCenter　MG/SVが認識しているマシンを一覧、キュー一覧、ユーザー一覧の表示を参照することができます。またキューの開始、停止などの操作を行うことができます。

5.6.1. マシン一覧を参照する

1. ナビゲーションバーの[マシン]を選択します。

2. JobCenter MG/SVが認識しているマシンの一覧が表示されます。

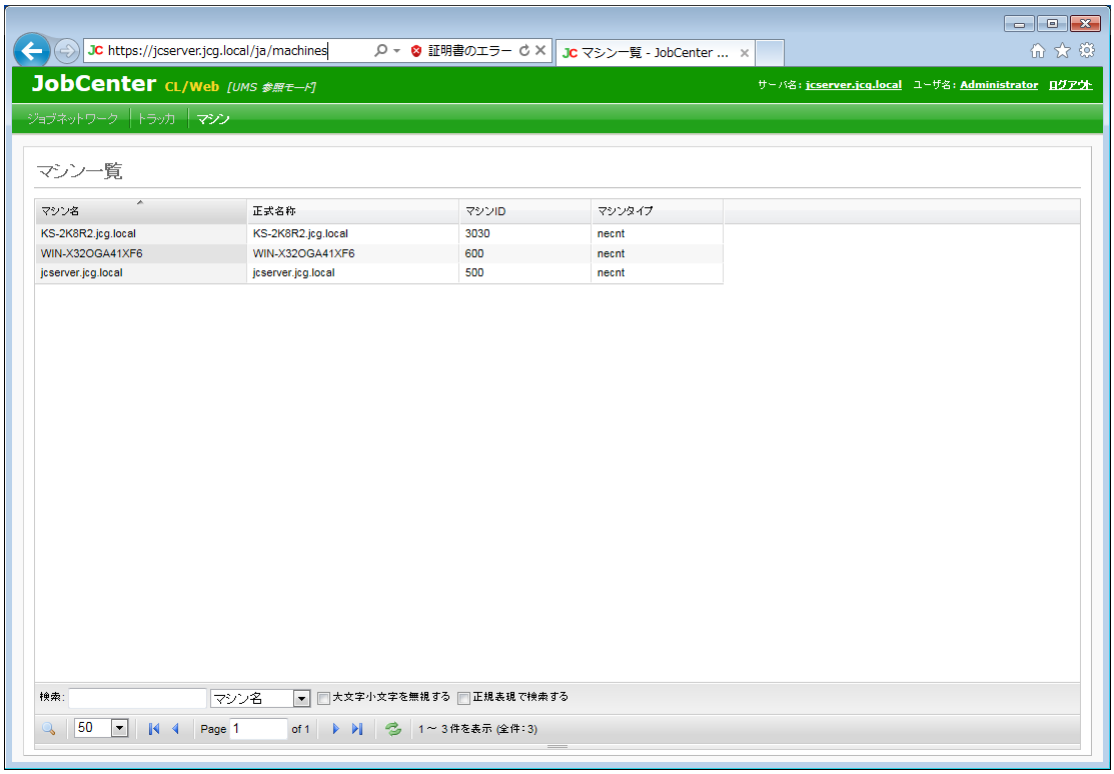

図5.36 マシン一覧表示画面

■マシン一覧項目

項目名	説明	補足
マシン名	JobCenter MG/SVが認識しているマシン名	
正式名称	マシンの正式名称が表示されます。	
マシンID	マシンIDが表示されます。	
マシンタイプ	マシンタイプ(necまたはnecnt)が表示されます。	

5.6.2. キュー一覧を参照する

1. マシン一覧表示の画面よりキュー一覧を参照したいマシン名にカーソルを合わせクリックをします。

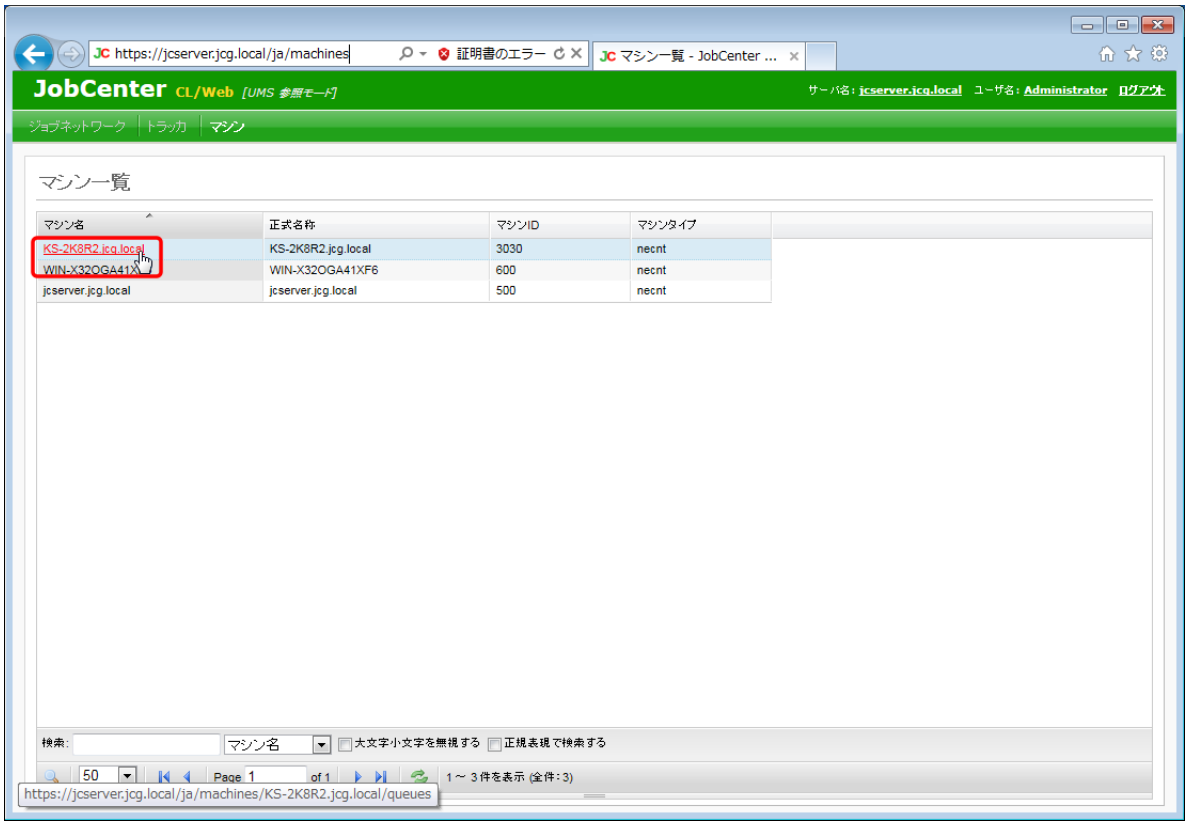

図5.37 マシン選択画面

2. 選択したマシンのキュー一覧が表示されます。

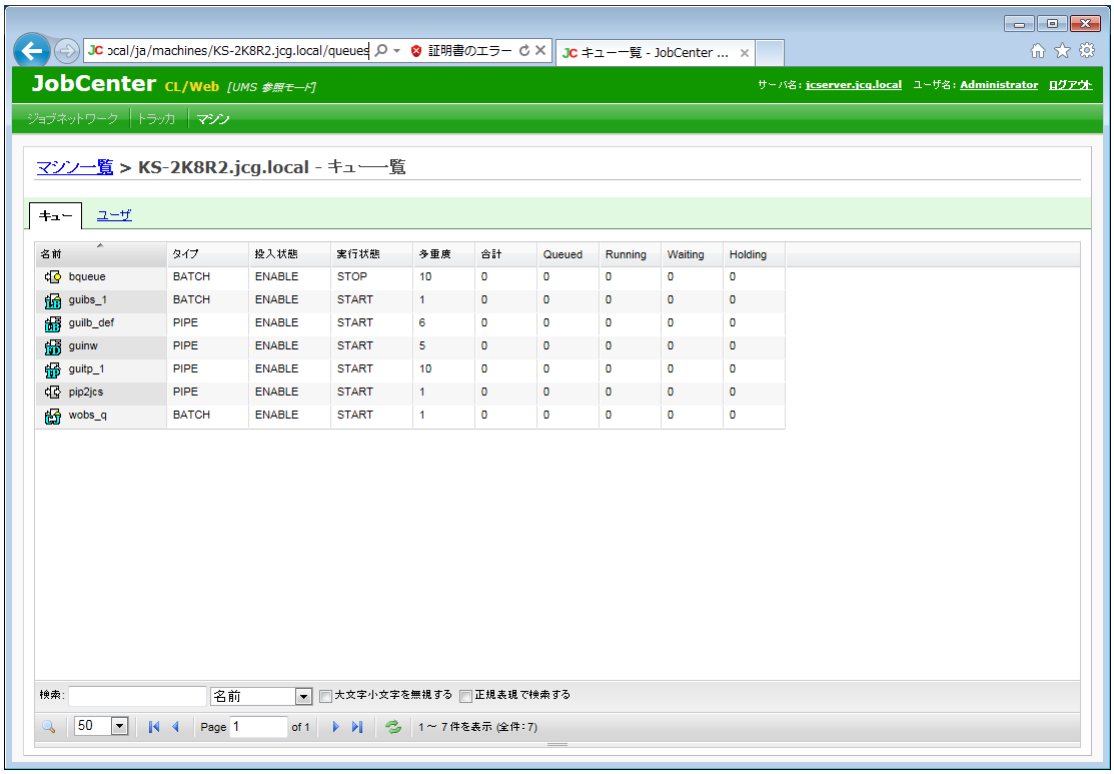

図5.38 キュー一覧表示画面

3. デフォルトの項目以外でキューフラグ項目を[Hide/Show Columns]機能により追加することが可能です。[Hide/Show Columns]機能については「5.1.4 表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

■キュー一覧項目

項目名	説明	補足
名前	<基本操作ガイド>の「8.1.2 NQSフレームでキュー一覧を表示する」を参照してください。	
タイプ		
キューフラグ	キューの種類を表す NORMAL、LOADBALANCE、TRANSPARENTのうち一つが表示されます。 ■NORMAL 通常のパイプキュー及びバッチキューであることを表します。 ■LOADBALANCE デマンドデリバリ負荷分散用キューであることを表します。 ■TRANSPARENT 透過型パイプキューであることを表します。	デフォルトの項目以外でキューフラグ項目を[Hide/Show Columns]機能により追加することが可能です。
投入状態	<基本操作ガイド>の「8.1.2 NQSフレームでキュー一覧を表示する」を参照してください。	
実行状態		
多重度		
合計		
Queued		
Running		
Waiting		
Holding		

5.6.3. キューを操作する

1. キュー一覧画面よりキューを操作したキュー名にカーソルを合わせ右クリックします。

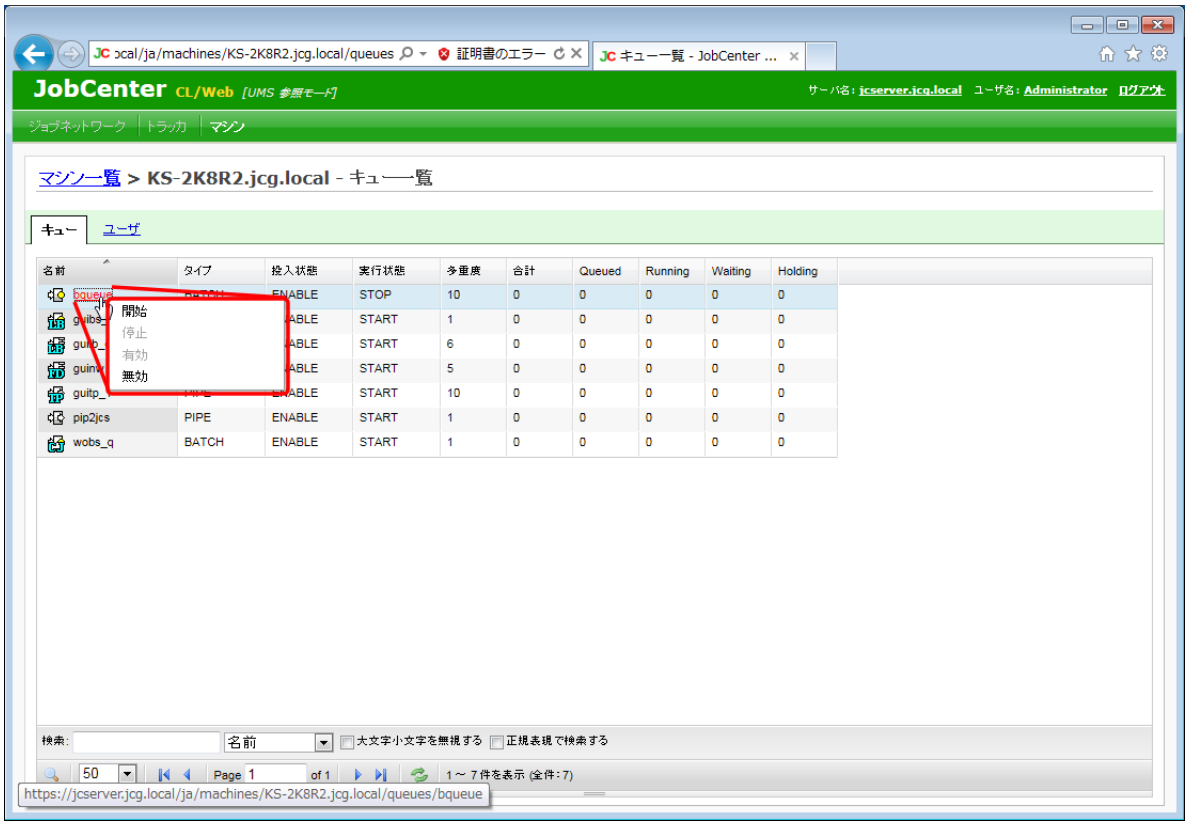

図5.39 キュー選択画面

CL/Webでのキューの操作はJobCenter管理者ユーザ以外は実行できません。

管理者ユーザ以外は項目がグレーアウトされます。

また、管理者ユーザであってもRefモードでログインした場合はキューの操作を実行できません。

2. 操作したい内容にカーソルを合わせクリックします。

3. [キュー制御]のポップアップ画面が表示されるので[OK]をクリックします。

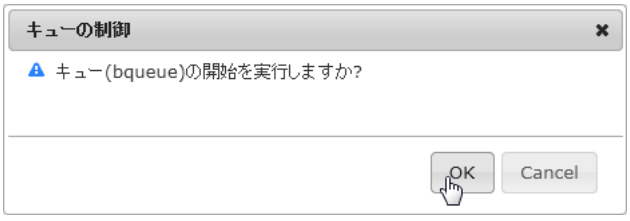

図5.40 キュー制御開始画面

4. キュー制御の操作が終了すると結果のメッセージが表示されるので[OK]をクリックします。

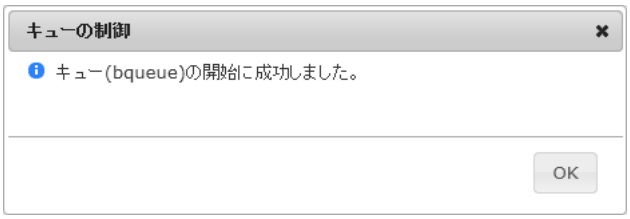

図5.41 キュー制御終了画面

■キュー操作項目

操作名	内容
開始/停止	キューの状態を開始または停止にします。
有効/無効	キューの状態を有効または無効にします。

5.6.4. ユーザー覧を参照する

1. キュー一覧表示画面のユーザタブを選択する。

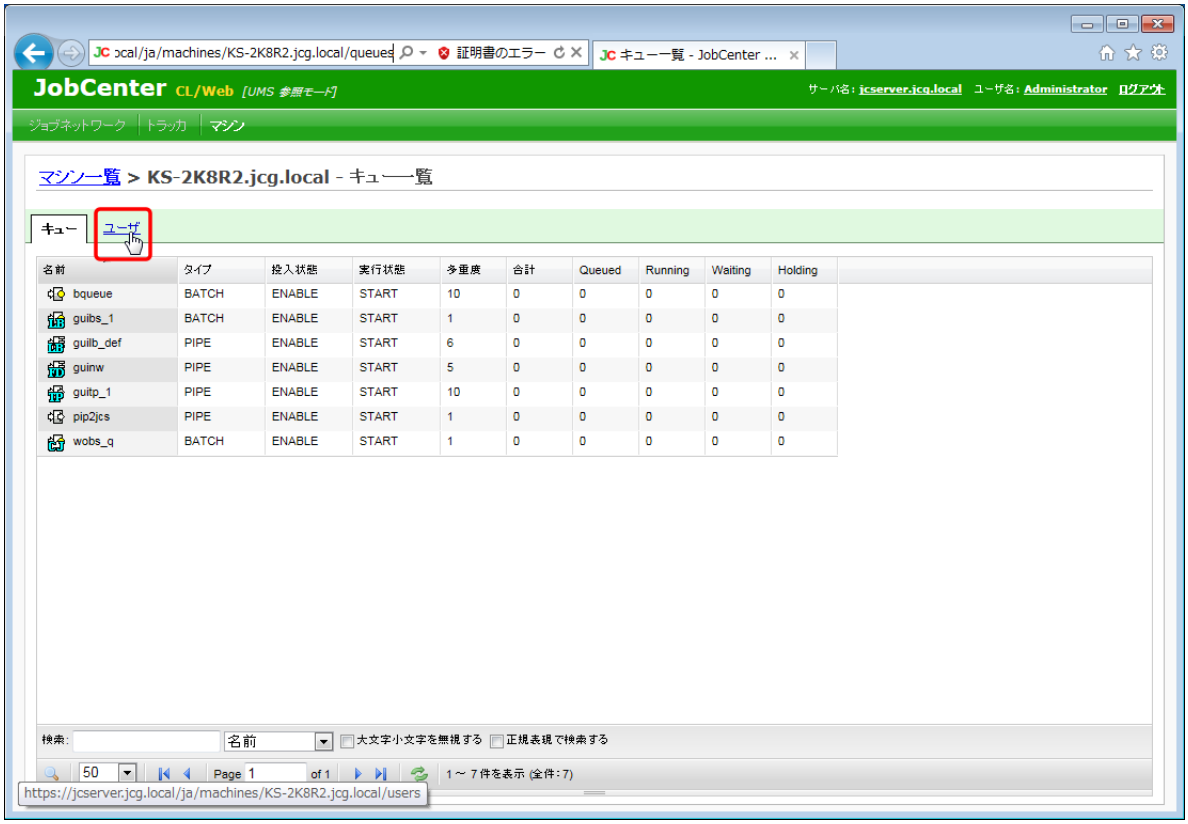

図5.42 ユーザタブ選択画面

2. JobCenter MG/SVが認識しているユーザが一覧で表示されます。

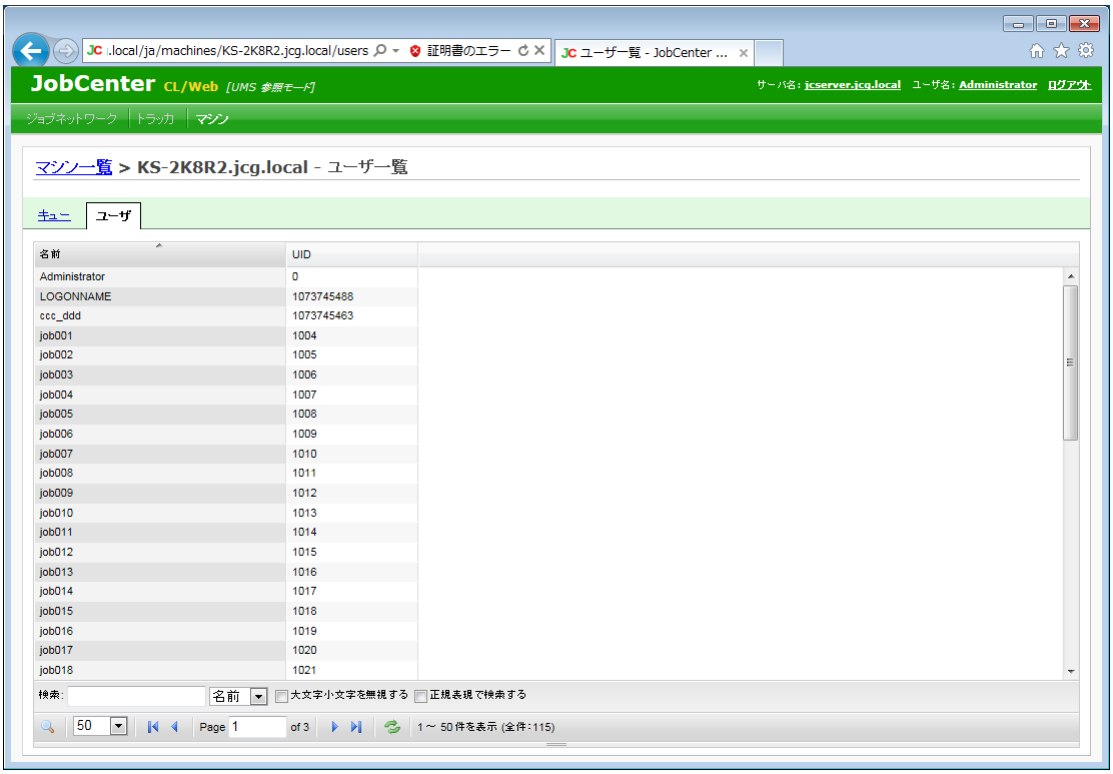

図5.43 ユーザタブ選択画面

■ユーザー覧項目

項目名	説明	補足
名前	ユーザ名が表示されます。	
UID	ユーザIDが表示されます。	

第6章 その他機能詳細

本章では、CL/Webが持つ各機能について詳細に説明します。

本章はSSLが有効であることを前提として説明しています。SSLを無効にしている場合は、説明中のCL/WebサーバのURLの「https」を「http」に適宜読み替えてください。

6.1. メール送信機能詳細

メール送信機能ではトラッカの状態画面のURLを任意で指定したメールアドレスに送信することができます。

6.1.1. SMTPサーバ設定

SMTPサーバ設定に使用するファイルは、使用ポートの設定と同じCL/Web環境設定ファイルclweb.confです。詳細については「3.1 CL/Webサーバ」を参照してください。

なお、設定する項目は通信先のSMTPサーバの設定により変わります。ご使用されているSMTPサーバの設定を確認して設定を行ってください。

SMTPサーバに関するclweb.confファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

表6.1 clweb.confのパラメータの設定値(SMTPサーバ指定)

設定	説明	タイプ	設定値
$mail_server	SMTPサーバ名を指定します。	文字列	SMTPサーバ名
$mail_port	メール送信に使用するポート番号を指定します。	数値	25[注1]
$mail_domain	SMTPサーバのドメイン名を指定します。	文字列	SMTPサーバドメイン名
$mail_authentication	送信時認証を指定します。	文字列	login/plain/cram_md5/none
$mail_username	$mail_authenticationでloginを指定した場合のみログインユーザ名を指定します。	文字列	ログインユーザ名
$mail_password	$mail_authenticationでloginを指定した場合のみログインパスワードを指定します。	文字列	ログインパスワード
$mail_from	送信者のメールアドレスを指定します。	文字列	送信者のメールアドレス

■注1 デフォルト設定値です。

■文字列を指定する場合はダブルクォーテーションで文字列を囲む必要があります。

■CL/Webサーバをインストールするマシンにファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対してCL/Webサーバが使用するネットワークポートの穴あけ作業を行ってください。

6.1.2. メール送信機能設定

メール送信の手順を次に説明します。

1. メール送信を行いたいトラッカ画面を開き、表示テーブルの右上にある[メール送信]ボタンをクリックします。

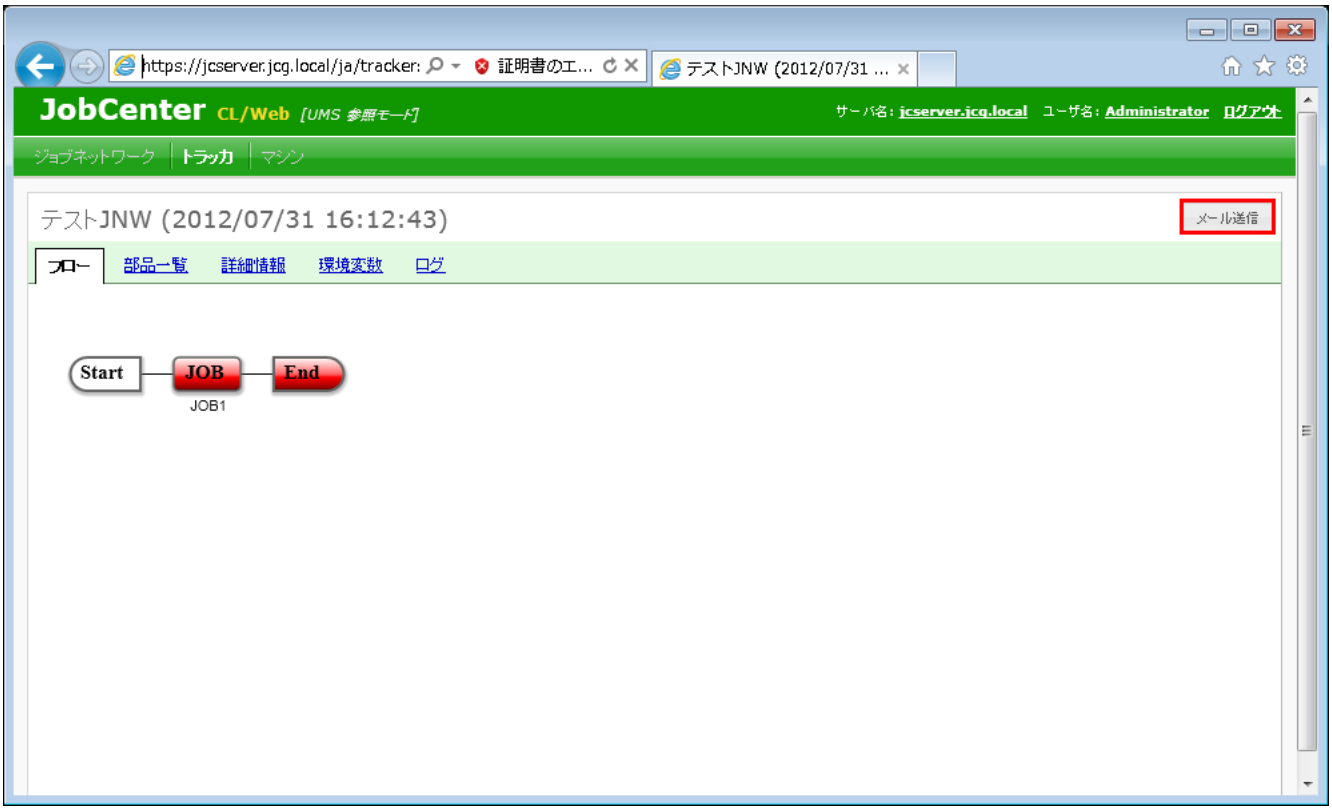

図6.1 メール送信ボタン表示画面

2. メール送信のダイアログが表示されるので、宛先、件名、本文を入力し[OK]をクリックします。

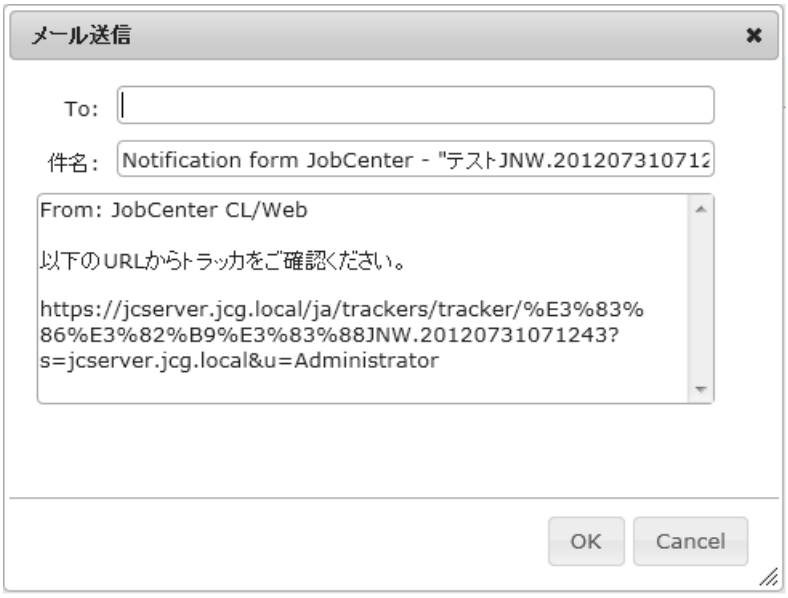

図6.2 メール送信設定画面

[メール送信]の設定項目は次の通りです。

■TO

メールの宛先アドレスを設定します。二回目以降は前回送信した相手の宛先が表示されます。

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ「,」で区切って、複数のアドレスを指定することができます。

前回送信した宛先メールアドレスはブラウザのCookieに保存されます。

■件名

送信するメールの件名を入力します。

■本文

送信するメールの本文を入力します。

トラッカのURL情報が記載されたメッセージがデフォルトで入力されています。

3. メール送信確認のダイアログが表示されるので、[OK]をクリックします。

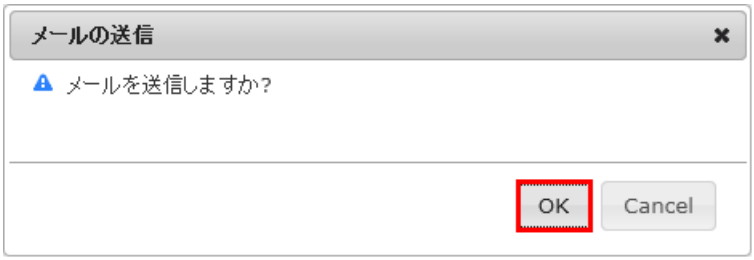

図6.3 メール送信設定画面

4. 成功するとメール送信結果のダイアログが表示されます。

6.2. マクロ機能

MG/SVのメール送信機能で使用可能なCL/Webのマクロを説明します。

6.2.1. マクロ機能(MG/SV)

JobCenter MGのメール送信機能である「件名、本文に使用可能なマクロ」に使用可能なマクロである%trkpath%、%partspath%を使用することで、CL/Webサーバからトラッカを参照するためのURLをメール本文に記述できます。

■マクロの設定

マクロを使用する場合はマクロの先頭に"https://から始まるアドレス(URL)/ja"を指定する必要があります。

マクロの指定方法は次の通りです。

```
https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/ja%trkpath%
```

マクロの詳細については<基本操作ガイド>の「11.5　件名、本文に使用可能なマクロ一覧」を参照してください。

■ケーススタディ

エラー発生時にエラーが起きたトラッカ画面のURLを担当者にメールで送信したい。

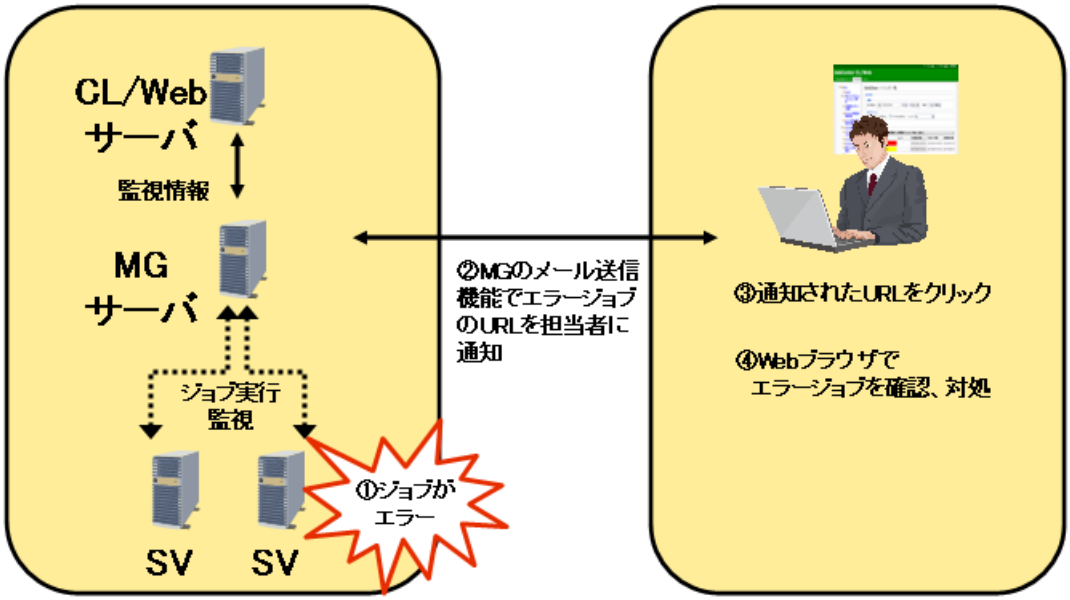

図6.4 ケーススタディ画面 1

- ケーススタディ画面1について次に説明します。

1. JobCenter SVにてジョブのエラーが発生。
2. CL/WebのトラッカURL情報をマクロにて記載しているメールがMGのメール機能にて担当者にメールが通知される。

3. メールを受け取った担当者はトラッカURLをクリックする。

4. Webブラウザが起動されてエラージョブを確認して対処をする。

■ 設定事例

設定対象	設定値
CL/Web動作マシン名	jobmachine
CL/Web動作マシンIPアドレス	192.168.20.1
JobCenter SVのユーザ名	testuser
エラージョブ名	testjob
トラッカ名	testjob.20120615140000

■ JobCenter CL/Winでのメール設定例

1. 件名にマシン名のマクロ、本文にトラッカ画面のURL、トラッカ部品画面のURL情報のマクロを事前に設定しておく。JobCenter　CL/Winのメール設定については<基本操作ガイド>の「11.2 指定されたあて先にメールでエラーを通知させる」を参照してください。

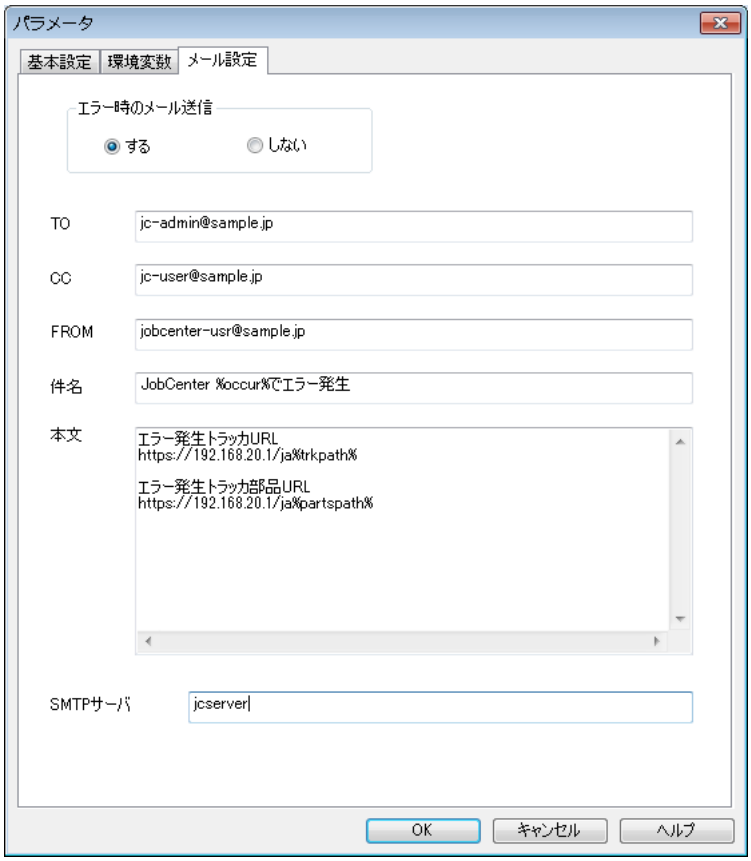

図6.5 CL/Winでのメール設定画面例

項目	例文
件名	JobCenter %occur%でエラー発生
本文	エラーについて下記を確認してください。 ■ エラー発生トラッカURL

項目	例文
	https://192.168.20.1/ja%trkpath% ■ エラー発生トラッカ部品URL https://192.168.20.1/ja%partspath%

2. エラーが発生した場合、1で設定した宛先にMGの機能でメールが送信されます。

   ■ (例)受信メール

```
件名:
JobCenter jobmachineでエラー発生

本文:
エラーについて下記を確認してください。

・エラー発生トラッカURL
https://192.168.20.1/ja/trackers/tracker/testjob.20120615140000?
s=jobmachine&u=testuser
・エラー発生トラッカ部品URL
https://192.168.20.1/ja/trackers/parts/UJOB/testjob.20120615140000/JOB1?
s=jobmachine&u=testuser
```

3. メールを受信した担当者はURLをクリックします。CL/Webのログイン画面が起動されるので表示されているサーバ名のパスワードを入力してログインします。

サーバ名とユーザ名はデフォルトで入力されています。

6.2.2. イベント連携

イベント連携時に使用可能なマクロである%trkpath%、%partspath%を使用することで、CL/Webサーバからトラッカを参照するためのURLをイベントのメッセージに出力できます。

イベント連携の設定に関しては<環境構築ガイド>の12章　「イベント連携」　を参照してください。

次のケーススタディではHPOM製品との連携を例としています。

■ケーススタディ

イベント発生時にエラーの情報をWebブラウザ画面で確認したい。

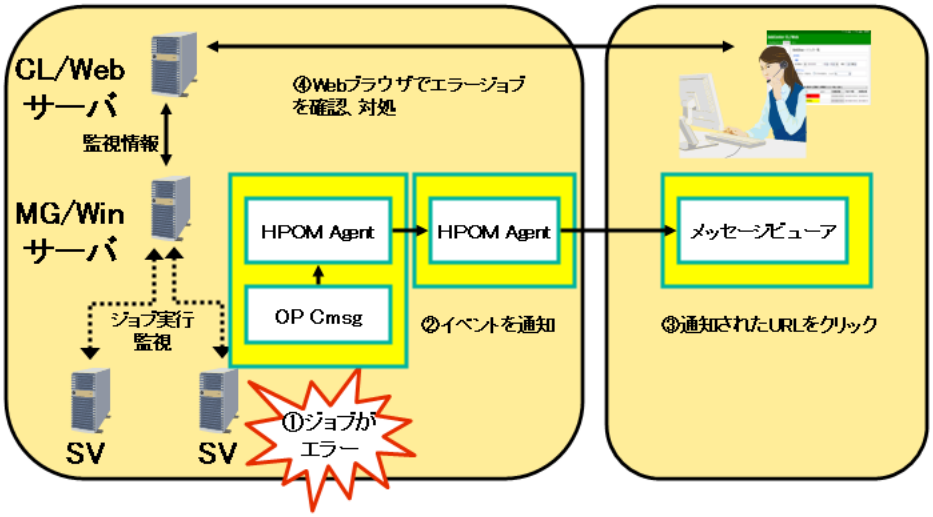

図6.6 ケーススタディ画面２

- ケーススタディ画面2について次に説明します。

1. JobCenter SVにてジョブのエラーが発生。
2. HPOM製品によりイベントが通知される。
3. メッセージビューアのメッセージにCL/WebのトラッカURL情報が表示される。
4. 担当者はURLをクリック、もしくはURLをコピーしてWebブラウザのアドレスバーに貼り付けてエラーを確認して対処する。

- 設定事例

設定対象	設定値
CL/Web動作マシン名	jobmachine
CL/Web動作マシンIPアドレス	192.168.20.1
JobCenter SVのユーザ名	testuser
エラージョブ名	testjob
トラッカ名	testjob.20120615140000

1. イベント定義ファイルにイベント送信先に出力するイベントのフォーマットを指定します。

   単位ジョブがエラー終了した場合

```
EVENT jnwsv.uj.err 0x2003 JNW_UNITJOB_ERROR "https://192.168.20.1/ja%trkpath%"
```

2. イベントが発生した場合、統合監視端末にトラッカ画面のURLが表示されるので、URLをクリックもしくはコピーしてWebブラウザのアドレスバーに貼り付けて実行します。
3. CL/Webのログイン画面が起動されるので表示されているサーバ名のパスワードを入力してログインします。

第7章 障害発生時の情報採取

CL/Webサーバの障害発生時、原因究明に必要な1次情報を漏れなく採取するために、「clweb_getinfo」というコマンドで情報採取を行います。

clweb_getinfoコマンドの詳細は<コマンドリファレンス>の「7.2 clweb_getinfo CL/Webサーバの障害発生時、原因究明に必要な1次情報を漏れなく採取」を参照してください。

第8章 注意事項・制限事項

本章では、CL/Webの注意・制限事項について説明します。

8.1. 注意事項

■CL/Webサーバのインストール時、SSLプロトコルを使用するポートを採番しファイアウォールの穴あけを行う必要があります。

■Windows環境でポートではなくCL/Webサーバプログラムに対してファイアウォールの設定を行いたい場合、CL/Webサーバのインストール後に次のファイルに対してファイアウォールの穴あけを行ってください。

- JREがx86版の場合

  <CL/Webインストールパス>\vendor\cmnd\win\clweb_serv.exe

- JREがx64版の場合

  <CL/Webインストールパス>\vendor\cmnd\win\amd64\clweb_serv.exe

8.2. 制限事項

■CL/Webのインストーラを起動するパスおよびCL/Webインストール時指定するインストールパスはマルチバイトを含むパスを使用できません。また、UNIXにインストールする場合はインストールパスにマルチバイトに加えてスペースも使用できません。

第9章 エラーメッセージ一覧

CL/Webを操作したときにダイアログなどで表示されるエラーメッセージについて説明します。

ただし、エラーメッセージは多岐に渡るため、抜粋したエラーメッセージとその考えられる原因および対処方法について次に記述します。

なお、エラーメッセージ内容は実際のメッセージと若干異なることがあります。

9.1. CL/Webサーバでのエラーメッセージ

CL/Webサーバに表示されるエラーメッセージについて説明します。

表9.1 CL/Webサーバエラーメッセージ内容

エラーメッセージ内容	考えられるエラーの原因と対処方法	操作箇所
Cannot find Java 1.5 or higher.	Java JREが見つかりません。 JREをインストールしていない場合、JREをインストールしてください。 JREがインストール済みであるにもかかわらずメッセージが表示される場合、インストール実行前に環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスを設定してください。	インストール
Cannot locate Java installation, specified by JAVA_HOME	環境変数JAVA_HOMEの指定が不正です。 環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスが正しく設定されていることを確認してください。	インストール
License Manager is not found. Please install License Manager.	License Managerがインストールされていません。 CL/Webサーバのインストールを開始する前に、License Managerをインストールしてください。	インストール
no such a directory(<ディレクトリパス>)	インストール先に指定したディレクトリの親ディレクトリが存在しません。 CL/Webサーバのインストールを開始する前に、ディレクトリの作成を行ってください。	インストール
"<ディレクトリパス>" already exists and is not an empty directory.	インストール先に指定したディレクトリの中が空ではありません。 インストール先を変更するか、ディレクトリの中を空にしてください。	インストール
Permission denied - <ディレクトリパス>	インストール先に指定したディレクトリに対して書き込みできません。 インストール先ディレクトリのアクセス権限を確認してください。	インストール
Only Administrator can execute this command.	ローカルのAdministratorユーザ以外でインストールを実施しようとしています。 ローカルのAdministratorユーザでインストールをしてください。	インストール

9.2. Webブラウザでのエラーメッセージ

Webブラウザに表示されるエラーメッセージについて説明します。

表9.2 Webブラウザエラーメッセージ内容

Webブラウザエラーメッセージ内容	考えられるエラーの原因と対処方法
サーバ名が空です。	サーバ名が入力されていません。 正しいサーバ名を入力してください。
ユーザ名が空です。	ユーザ名が入力されていません。 正しいユーザ名を入力してください。
パスワード名が空です。	パスワード名が入力されていません。 正しいパスワード名を入力してください。
サーバとの通信に失敗しました。サーバ名を確認してください。	指定したサーバ名が誤っています。 正しいサーバ名を入力してください。
ユーザ名またはパスワードが間違っています。	指定したユーザ名かパスワードが誤っています。 正しいユーザ名とパスワードを入力してください。
メール送信に失敗しました。	SMTPサーバの設定が誤っている可能性があります。 SMTPサーバ設定を正しく修正してください。
サーバとの通信に失敗しました。JobCenter MG/SVの起動を確認してください。	JobCenter MG/SVが停止しています。 JobCenter MG/SVを起動してください。
指定されたページが見つかりません。	指定されたページが存在しません。 URLを直接入力している場合、URLを確認してください。
ジョブネットワークを参照する権限がありません。	ジョブネットワークの参照権限がありません。 CL/Winのパーミッション設定でユーザ自身のジョブネットワークの一覧と参照が許可されているか確認してください。
トラッカを参照する権限がありません。	トラッカの参照権限がありません。 CL/Winのパーミッション設定でユーザ自身のトラッカの一覧と参照が許可されているか確認してください。
Internet　Exploreではこのページは表示できません。	CL/Webサーバへの通信間で問題があります。 接続先、CL/Webサーバのサービス起動、Webブラウザの設定を確認してください。Webブラウザの設定の詳細については「3.2　Webブラウザ」を参照してください。

発行年月 December 2013
NEC Corporation2013